ROHM Group Innovation Report 2015

持続可能な社会を実現するために私たちが常に心がけていること

ローム株式会社

編集方針

本レポート発行の目的

ロームグループは、製品品質と経営品質の「革新(innovation)」を通じて持続可能な社会の実現に貢献することを目指しています。そこで、この目標に向かっての進捗をステークホルダーの皆様にご報告し、ロームグループへのご理解を深めていただくために「Innovation Report」を2012年度から発行しています。
これまで、ロームは、2001年度から「環境報告書」を発行し、2007年度からは「CSRレポート」に改めて2011年度まで発行しました。本レポートは、これらをさらに発展させたものです。

報告対象組織

ローム株式会社およびロームグループ各社
(国内・海外関係会社)

報告対象期間

2014年度(2014年4月1日～2015年3月31日)
一部、この期間前後の事象・取り組みも報告しています。

発行時期

2015年6月(次回:2016年6月予定　前回:2014年6月)

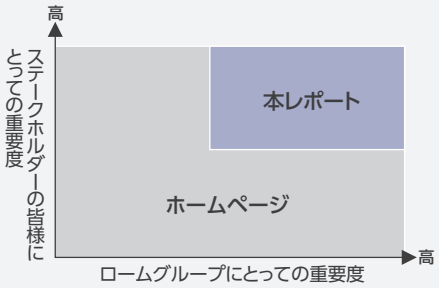
参考にしたガイドラインなど

・GRI「サステナビリティ・レポーティング・ガイドライン 第4版(G4)」
・ISO26000
・環境省「環境報告ガイドライン2012年版」
・EICC行動規範 Ver.5.0

他の報告媒体との関係

■CSR情報について

ホームページには「CSRへの取り組み」として、本レポートに掲載していない情報も掲載しています。また、環境保全に関する詳細情報も「環境データブック(PDF)」として掲載しています。本レポートとの関係は下図のとおりです。



■業績・財務情報について

各種法定開示書類のほか、アニュアルレポートなどを発行し、ホームページにも掲載しています。

企業情報
http://www.rohm.co.jp/web/japan/about-rohm
CSRへの取り組み
http://www.rohm.co.jp/web/japan/csr1
投資家情報
http://www.rohm.co.jp/web/japan/investor-relations

目 次

ROHM Group Innovation Report 2015

編集方針 / 目次 …… 1
企業目的・方針 …… 2
トップメッセージ …… 3

Product Quality Innovation

製品品質の革新 …… 6
モノづくり品質の追求 …… 7
LSI事業 コミットメント …… 9
LSI事業 ハイライト …… 10
ディスクリート・モジュール事業 コミットメント …… 13
ディスクリート・モジュール事業 ハイライト …… 14

Management Quality Innovation

経営品質の革新 …… 17
CSR 経営について …… 19
ロームグループの「CSR重点課題」 …… 20
ISO26000に沿って6つの「CSR重点課題」を特定 …… 20
ステークホルダーの皆様との対話を重視して …… 21
ISO26000中核主題と活動 …… 23
組織統治 …… 23
人権/労働慣行 …… 27
環境 …… 29
公正な事業慣行 …… 31
消費者課題(お客様への対応) …… 33
コミュニティへの参画および発展 …… 35
CSRの目標・計画と実績 …… 39

会社情報 …… 41

ロームグループは国連グローバル・コンパクトに加盟しています。

国連グローバル・コンパクト(UNGC)とは
企業をはじめとする組織体が責任ある創造的なリーダーシップを発揮することによって持続可能な発展を実現することを目指した国際的なイニシアティブ。UNGCを支持する企業は、「人権」「労働」「環境」「腐敗防止」の4分野にわたる10原則を実現することが求められます。

THE GLOBAL COMPACT
Network Japan
WE SUPPORT

企業目的・方針

ロームグループは、社会から信頼され、期待される企業であるために、
創業当初から掲げている企業目的をすべての社員に浸透させています。

[企業目的]

われわれは、つねに品質を第一とする。
いかなる困難があろうとも、
良い商品を国の内外へ永続かつ大量に供給し、
文化の進歩向上に貢献することを目的とする。

さらにこの企業目的を達成するための方針が定められており、事業活動の指針となっています。

[経営基本方針]

社内一体となって、品質保証活動の徹底化を図り、適正な利潤を確保する。
世界をリードする商品をつくるために、あらゆる部門の固有技術を高め、
もって企業の発展を期する。
健全かつ安定な生活を確保し、豊かな人間性と知性をみがき、もって社会に貢献する。
広く有能なる人材を求め、育成し、企業の恒久的な繁栄の礎とする。

[品質管理基本方針]

1. 社内標準化を全社的に推進し、データによる管理体制を確立する。
2. 総合的かつ継続的な調査活動を行い、新技術、新製品の開発に努める。
3. 企業活動のあらゆる分野において、統計的方法を積極的に活用する。
4. すべての工程において、品質保証の体制を確立する。
5. つねに生産方式の近代化を図り、製品のコスト低減に努める。
6. 材料、半成品の購入に際しては、契約によって納入者に品質保証をさせること。

[教育訓練基本目標]

1. 経営者、管理者、監督者、一般従業員たるを問わず、絶えず新しい知識の吸収に努め、広い視野に立って科学的に判断のできる人を育成する。
2. 知識と経験を生かし、その道の第一人者としての仕事に徹する人を育成する。
3. 逆境にあっても、つねに活路を見出し、積極的に目的を貫く人を育成する。
4. 全体の個であることに徹し、チームワークとしての成果を優先する人を育成する。

[教育訓練基本方針]

1. 全従業員は、あらゆる機会をとらえて自己の啓発に努力しなければならない。
2. あらゆる指導的立場にある者は、いかなるときも模範となる行動態度を自ら示さなければならない。
3. 教育訓練は、直接上司が日常業務を通じて行うものを主体とし、あわせて職場外教育訓練を実施する。
4. 各階層の長は、部下を正しく評価し、効果的な教育訓練を計画的かつ継続的に行う。
5. 各階層の長の評価は、部下に対する教育訓練の効果の程度によって行われることを原則とする。

創業以来、情報化社会の進展や価値観の多様化など、企業を取り巻く環境は変化していますが、
これらの方針は不変かつ、事業活動の原動力となっています。

Top Message

トップメッセージ

持続可能な社会を実現するために

創業時から受け継がれる ロームのCSV

世界ではサステナビリティ(持続可能性)の重要性が認識され、さまざまな社会的課題を解決しつつ、企業活動を実践していくCSV(共通価値の創造)という考え方が広がっていますが、われわれにとっては、決して新しい取り組みではありません。ロームは創業時より「企業目的」に基づき、品質を第一としたモノづくりを通して、文化の進歩向上に貢献するため挑戦を続けてきたからです。

創業から50余年、企業規模や経営環境は大きく変化しましたが、これらの考えは不変であり、ロームのDNAとして連綿と受け継がれています。

社員一人ひとりが「企業目的」「経営基本方針」を実践し、革新的な製品開発や質の高いモノづくりを進めることは、お客様満足度(CS)を向上させるとともに社会への貢献につながると考えています。そして、そのことが、社員の自信と誇りを高め、新たな挑戦を生み出すと信じています。

ロームグループでは、この良循環をわれわれのCSVと位置付け、真摯に企業活動に取り組むことで、ステークホルダーの皆様の期待にこたえられる企業を目指してまいります。

革新的な新製品を供給し、社会的課題を解決

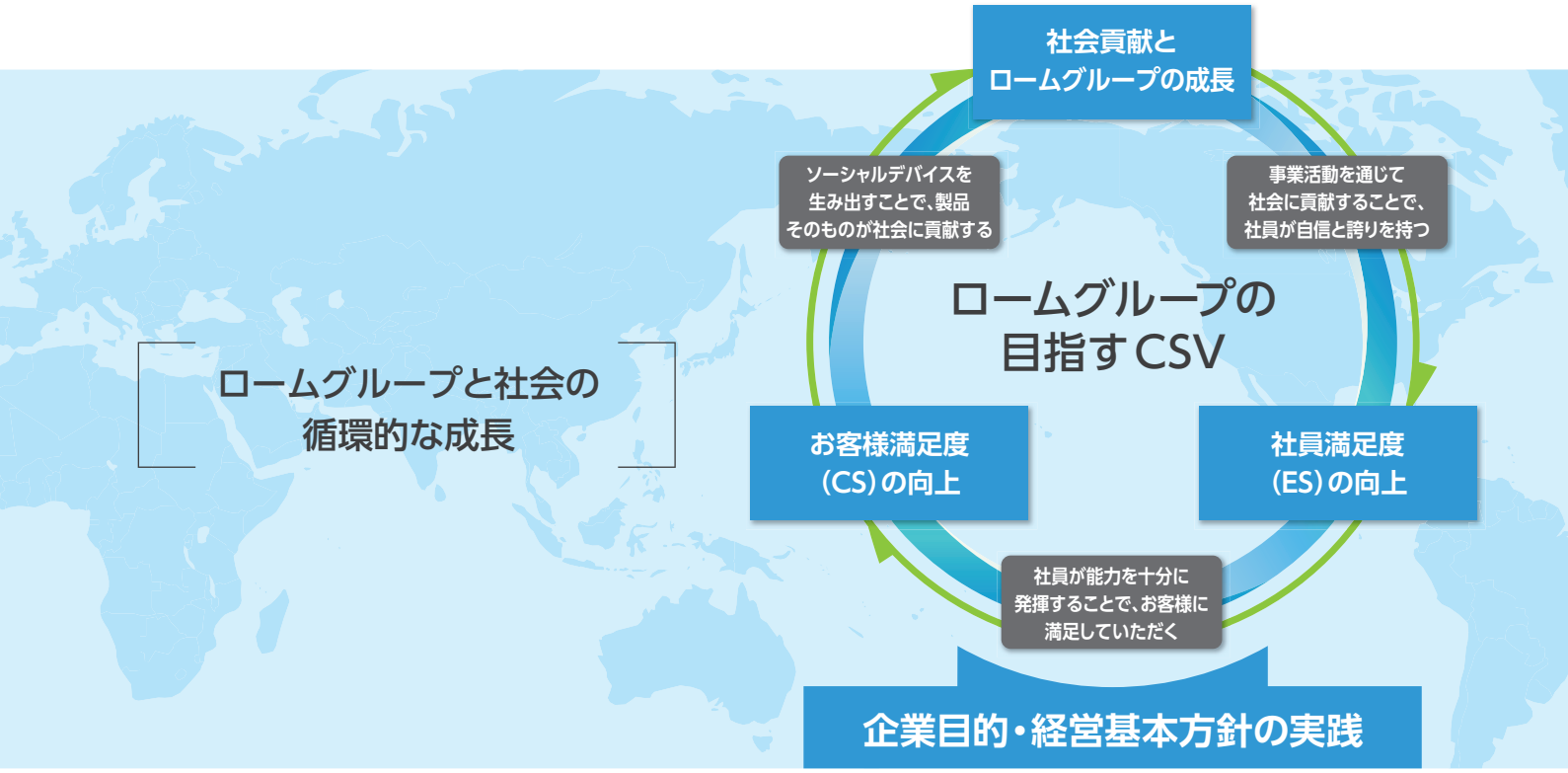
ロームは、製品を通じて社会に貢献するため、省エネ、安全、快適、そして小型化をキーワードに革新的な製品を供給してまいりました。近年では、技術革新が進む自動車、電子化が進む医療機器、社会インフラや高効率な工場を支える産業機器、そしてスマートフォンなどのIT機器など、幅広い分野に向けたキーデバイスを数多く提供しています。

アナログパワー技術で社会に貢献

これらローム製品の中核を担うのがアナログパワー技術です。高い技術力と豊富な経験を積んだアナログエンジニアが世界最先端のプロセス技術と回路設計技術を駆使し、高効率な電源LSIをはじめ、高性能モータドライバなど、トップクラスの性能を誇るアナログパワーLSIを生み出しています。

またロームは、劇的な省エネ効果を発揮するうえで欠かすことができないパワーデバイス分野においても、SiC（シリコンカーバイド）を中心に世界をリードしています。豊富なパワーディスクリートと、LSIによるアナログ制御技術、それらを組み合わせたモジュール技術という3つのコア技術を融合することで、お客様に最適なパワーソリューションを提供しています。

さらに、爆発的な拡大が期待されるIoT（モノのインターネット）に対しては、ロームグループのKionix社が持つセンサ技術やラピスセミコンダクタ株式会社の超低消費電力技術を生かしたローパワーマイコンや無線通信技術が大きく貢献できると考えています。センサ技術、制御技術、そして無線通信技術を融合し、安全・快適でスマートな生活を実現するセンサネットワーク構築をサポートしてまいります。



企業目的の実践により、製品品質と経営品質を高める

われわれの企業活動の根幹を担うのが、開発から製造までを一貫してグループ内で行う「垂直統合」システムです。

これは創業以来、大切に守り続けてきた「品質を第一とする」というロームのDNAの象徴でもあります。

あらゆる工程で高い品質をつくり込み、確実なトレーサビリティの実現やサプライチェーンの最適化を図ることにより、製品としての貢献だけでなく、確かな安心をお客様にお届けしてまいります。

「製品品質」を高める一方、企業としての品質・品格ともいえる「経営品質」を高めることも重要と考えています。ロームでは、グループを横断するCSR委員会の組織整備を行うとともに、電子業界の行動規範であるEICCに準拠した活動にも積極的に取り組んでまいりました。近年は、外部監査に加えて、ロームグループ全体のEICCへの適合状況を自己検証する内部監査も徹底しています。2014年には、これらの取り組みをさらに強化すべく、CSR本部を設置し、あらゆるステークホルダーの皆様との関係強化に努めています。

「豊かな人間性と知性をみがき、もって社会に貢献する」

すべての企業活動を支えるのは、何よりも「人」であり、あらゆる品質や環境問題などに妥協することなく真摯に取り組む姿勢です。その規範とも言えるのが「経営基本方針」の一節に示された、この言葉です。

ロームの社員として、知識や専門性を追求するだけでなく、倫理観や向上心、謙虚さといった豊かな人間性を併せ持つことが非常に重要であると考えています。

心技体でバランスのとれた人財を育て、ロームのDNAを伝承していくことにより、あらゆる面で高品質かつ公正な企業活動を実践してまいります。

ロームグループはこれからも「企業目的」「経営基本方針」を実践し、あらゆる品質を高めるとともに新たなチャレンジを続けることで、社会に貢献してまいります。

2015年6月

Satoshi Sawamura

代表取締役社長　澤村 諭

製品品質の革新

Product Quality Innovation

ロームグループでは社会的課題の解決に貢献できる革新的な製品の開発を目指しています。

モノづくり品質の追求 …… P.7～
LSI事業 …… P.9～
ディスクリート・モジュール事業 …… P.13～

ロームグループの製品群

■ IC / LSI
メモリ
アンプ / リニア
クロック / タイマ
スイッチ / マルチプレクサ / ロジック
データコンバータ
インターフェース
パワーマネジメント / 電源IC
モータ / アクチュエータ ドライバ
LEDドライバ
表示用ドライバ
センサ / MEMS
通信用LSI（LAPIS）
オーディオ / ビデオ
音声合成LSI（LAPIS）
マイクロコントローラ（LAPIS）

■ パワーデバイス
SiCパワーデバイス
IGBT
インテリジェントパワーモジュール
パワートランジスタ
パワーダイオード
高電力抵抗器

■ 小信号デバイス
トランジスタ
ダイオード

■ パッシブデバイス
抵抗器
タンタルコンデンサ

■ オプトデバイス
LED
LEDディスプレイ
半導体レーザ
光センサ
IrDA赤外線通信モジュール
リモコン受光モジュール

■ モジュール
電源モジュール
無線通信モジュール
コンタクトイメージセンサヘッド
サーマルプリントヘッド

■ セット製品
LED照明
バナリスト（血液分析システム）

最高の品質をつくり込む世界最高の工場を目指します。

ローム株式会社
LSI生産本部
本部長　**松本 功**

創業より続く品質へのこだわり

ロームは企業目的に「品質第一」を掲げ、追求しています。その品質第一を形にした「垂直統合型生産体制」により、グループ内で開発・設計、ウエハ製造を含めた生産、販売・サービスまでを行い、すべてのプロセスで品質を高める活動に取り組んでいます。

動作や運搬、停滞など工場で生じる7つの無駄を徹底的に排除し、ダントツの品質をつくり込むための取り組み、RPS（ロームプロダクションシステム）活動もその一つです。1997年以降行ってきたRPS活動は今、事業や設備を中心としたさまざまな環境の変化に対応しており、世界最高の工場を実現するために活動をさらに強化しています。

垂直統合でのモノづくりが高品質の源泉

製品開発を支える生産ラインにおいては、シリコンのインゴット引き上げから完成品に至るまでのあらゆる工程で高品質・高信頼性を追求し、品質をつくり込んでいます。ここでは、開発・設計のエンジニアと製造のエンジニアが一丸となることで、プロセス技術や工場特性を最大限に引き出し、他社に真似のできない特性と品質を保証することが可能になっています。同時に卓越したトレーサビリティも実現しており、お客様に安心して製品をお使いいただくための体制を整えています。

グループの総力をあげて供給責任を遂行

ロームグループは、変化する市場の状況をとらえ、求められる製品の供給責任を果たしています。垂直統合型の一貫生産を軸に、自社ですべての製造工程を管理しているため、一般のファブレスメーカやファウンドリメーカと比べ、外部から影響を受けにくい体制を構築しています。また、多拠点生産体制や災害時対応の安全在庫の確保などのBCM（事業継続マネジメント）体制を整え、お客様への安定供給に努めています。

これらの垂直統合型生産体制は、自動車など、高い品質レベルが求められる市場においても着実に実績を積み上げてきました。今後も社会の課題を解決する製品開発を進めることはもちろん、高品質・高信頼の生産ラインをあらゆる製品に展開し、モノづくりを通じて社会に貢献してまいります。

垂直統合型生産体制が実現する高品質・安定供給

品　質

グループ内で生産から販売・サービスまでを行う「垂直統合型生産体制」により、すべてのプロセスで品質を高める活動を行っています。

生産システムの自社開発

生産システムを自社で開発し、お客様のニーズにきめ細かくおこたえしています。

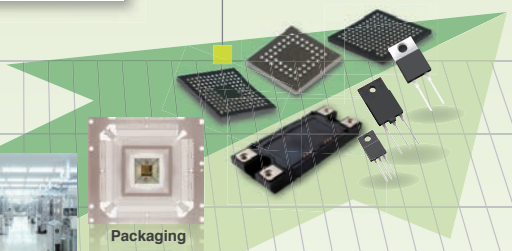
生産システムの開発を自社で対応

内製金型・リードフレーム

品質をつくり込むため、リードフレーム打ち抜き用の金型、モールドの金型を内製化

最先端パッケージ

CSP、BGA、COF、スタックドパッケージなど最先端のアッセンブリ技術を提供



内製フォトマスク

LSIチップデザインのレイアウトからフォトマスク製造まで一貫した品質管理で高品質を追求

原材料からのこだわり

シリコンのインゴット引き上げからウエハを製造

シリコン原石

安定供給

お客様に安心して製品をお使いいただけるよう長期安定供給を実施しています。

リスク管理・BCM委員会を組織

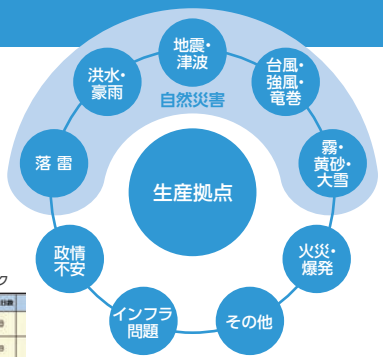
■ リスク抽出・分析・統括管理

BIA(Business Impact Analysis)

リスク分析 → リスク検証 → リスクに強い在庫設計

工場ごとにリスク検証

全工場のリスクチェック



SiCrystal AG

SiCrystal社は2009年ロームグループの一員となったドイツのSiC単結晶ウエハメーカ。

最高峰の
アナログパワーLSIで
省エネに貢献します。

ローム株式会社
LSI商品開発本部
本部長 **飯田 淳**

経験豊富なアナログエンジニア

LSI事業においては、ロームが得意とするアナログ技術を活かした「アナログパワーLSI」の開発に注力しています。電源LSIやモータドライバに代表されるアナログパワーLSIは、さまざまな電子機器の電力変換やモータ駆動の高効率化において重要な役割を担っており、タブレットPCなどのIT機器をはじめ、自動車や産業機器まで幅広く採用いただいています。

これらの性能向上のためには、個々のアナログエンジニアの高い技術力や豊富な経験とともに、高耐圧や微細化技術など開発ニーズに合わせた製造プロセスの構築が重要となります。ロームはアナログパワーLSIの開発に最適な高耐圧と微細化を両立できる業界最先端の「BiCDMOSプロセス」を有し、プロセス技術と回路設計技術をすり合わせることで高性能・高品質な製品を生み出しています。例えば、自動車や産業機器向けの製品に必要とされる高耐圧チップと高精度を実現する低耐圧チップを1つのパッケージで共存可能にする絶縁技術などがあります。

総合力を活かしたシステム提案

またロームは、パッシブデバイスからディスクリートデバイス、LSI、モジュールまで開発しており、システムレベルで製品を提案できるのが大きな強みです。ラピスセミコンダクタ株式会社やKionix社なども含め、ロームグループの総合力を活かしたシステム提案により、カテゴリトップメーカとの協業やアナログパワーLSIと周辺デバイスを組み合わせた製品開発など、付加価値の高いビジネス展開を加速させています。

2014年には、市場拡大が期待されるIoT（モノのインターネット）やセンサネットワーク分野に向けて、ロームグループが持つ豊富なセンサ技術を統合して開発に取り組む「センサ事業推進」を新設しました。独自のセンサ技術開発に加えて、制御技術、通信技術などを組み合わせ、拡大する市場に向けてロームの強みを活かしたソリューション提案を進めてまいります。

省エネに貢献するアナログパワーLSIを中心に、センサや通信など「安全」と「快適」に貢献する高機能・高信頼のデバイス開発を進め、新しい社会の創造に貢献していきたいと考えています。

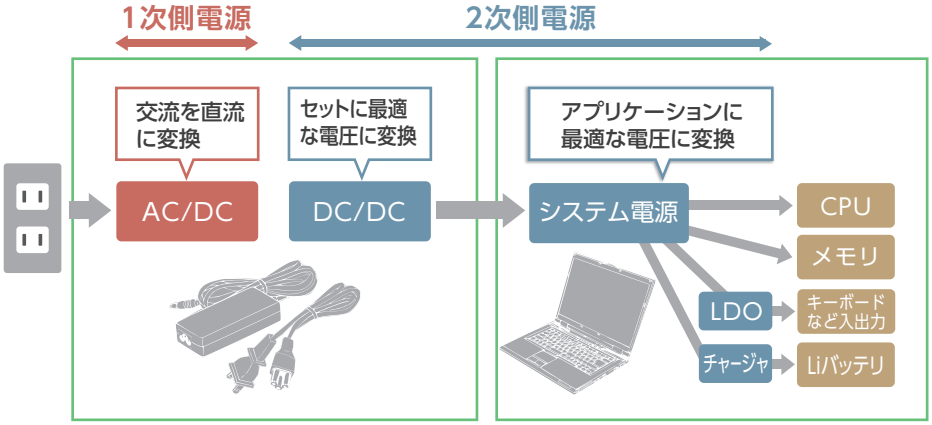
LSI事業 ハイライト

あらゆる生活シーンを支えるアナログパワーLSI

Analog Power

パワーマネジメントシステム

さまざまな電子機器で省エネの鍵を握るパワーマネジメントシステム。ロームは、1次側電源から2次側電源まで両方の技術を持っており、あらゆる電力変換を高効率にサポートし、パワーマネジメントシステム全体の最適化と、省エネ化に貢献しています。



デファクトスタンダードをリードする企業とのリファレンスビジネス

ロームはシステム全体の省エネ化に貢献するために、CPUメーカと継続的な協業に取り組んでおり、IT機器や自動車、産業機器などの幅広い市場に向けて、CPUの性能を最大限に引き出す電源LSIの開発を進めています。

インテル社様

自動車・産業機器向け

2010年9月発表
インテル® Atom™
プロセッサーE600シリーズ用
チップセット&リファレンスボード

タブレットPC向け

2015年4月発表
次世代インテル® Atom™
プロセッサー用電源LSI

フリースケール・セミコンダクタ社様

ポータブル機器向け

2015年4月発表
ポータブル機器向け
i.MX 6SoloLite
アプリケーション・
プロセッサー用電源LSI

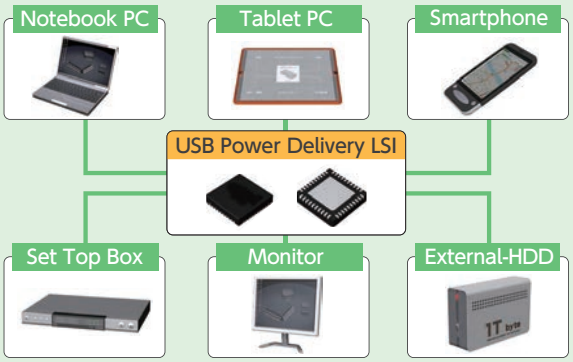
インテル、Intel Atomは、アメリカ合衆国および / またはその他の国における Intel Corporationの商標です。

業界最先端標準規格に続々参入

ロームグループの持つアナログ技術とデジタル技術を融合し、最先端の標準規格に続々と参入しています。その技術力が認められて、主要メンバーとして規格策定の段階より開発に携わることで、業界に先駆けて規格に準拠するLSIを提供しています。

USB Power Delivery LSI

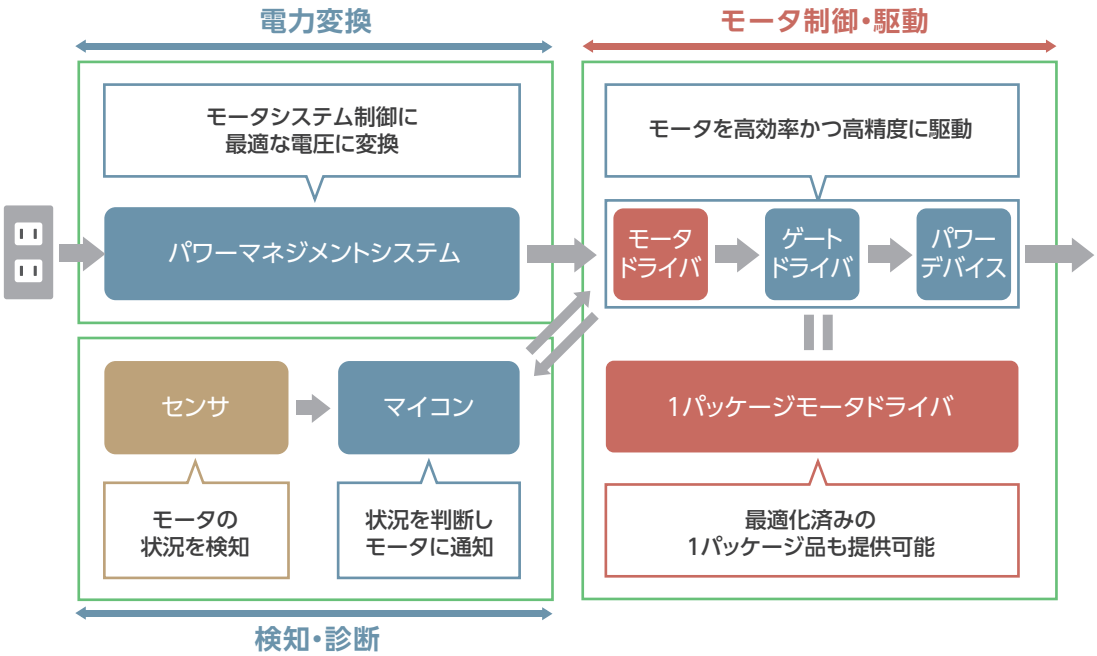
USBがコンセントのようになり、さまざまな機器に合わせて最大100Wまでの電力を供給します。

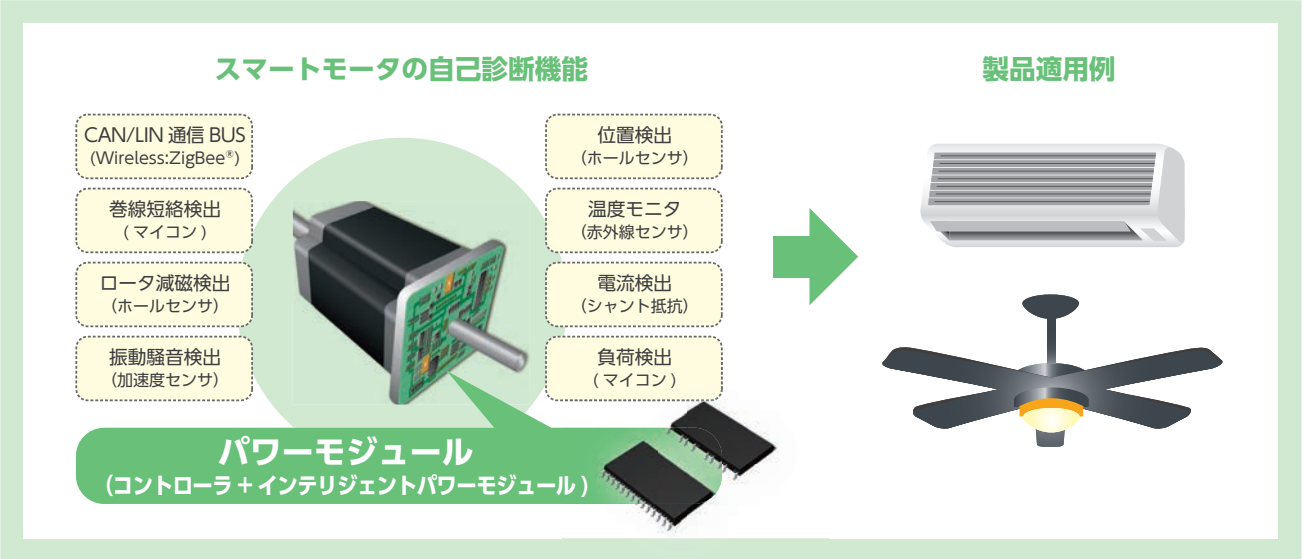


技術融合で進化し続けるロームグループ

スマートモータシステム

モータ動作をサポートするデバイスが、モータの診断を行いシステムの高効率化・長寿命化につなげるスマートモータシステム。ロームはモータドライバICのトップメーカとして、高効率・高性能製品を多数ラインアップしており、ロームグループの持つセンサやマイコンなどと組み合わせることで実現しています。





世界の消費電力のうち、約50%がモータに使用されていると言われており、世界のあらゆる地域にエアコンやロボットなど、モータを搭載した製品が普及するにつれ、その消費電力は今後ますます増大すると考えられています。
ロームは民生機器市場で培ってきた経験を活かし、高耐圧品、他デバイスとの1パッケージ品など、自動車や産業機器分野を中心に拡がる市場・用途に対応する製品開発に取り組んでおり、さまざまなモータアプリケーションの高効率化に対応することで、世界の消費電力削減に貢献していきます。

Sensor Network / Synergy

あらゆるモノがインターネットにつながるという、IoT(モノのインターネット)を実現するうえで無くてはならないものが、状態を検知するために必要な「センサ」と、センサが得た情報を共有するための「ネットワーク」です。
ロームはかねてより、ラピスセミコンダクタ株式会社、Kionix社と技術を結集し、ロームグループ全体でセンサネットワーク構築に向けた製品開発、ソリューション提案に取り組んできました。今後は、その経験と実績を活かし、IoTの普及に貢献していきます。

センシングソリューション

MEMS(微小電気機械システム)技術を中核に構成される豊富なセンサエレメントと、それぞれのセンサエレメントを活かす最適な制御ASIC(特定用途向け集積回路)を合わせることで、安全・快適を実現するセンサ環境構築を進めています。

MEMS技術を中核に
豊富なセンサデバイスを開発

ネットワークテクノロジ

IoTやM2M(機器間通信)で考えられる、さまざまなネットワーク環境を構築するために必要な通信デバイスを多数開発しています。自由度の高いLSIと簡単に導入可能なモジュールを各種取りそろえ、拡がる市場の幅広いニーズにこたえています。

さまざまなアプリケーションをつなぐ
高品質の通信デバイス

ロームグループのセンシングソリューションとネットワークテクノロジで

IoT普及に貢献

省エネルギー化と小型化で社会に新しい価値を提案してまいります。

ローム株式会社
ディスクリート・モジュール生産本部
本部長 **東 克己**

社会の省エネルギー化に貢献する、先進的パワーデバイス開発

ディスクリート・モジュール事業においては、大電力・高耐圧化に対応する特長あるパワーデバイスの拡充・強化を進めるとともに、ロームの強みである小型・ローパワー分野の技術を追求しています。

パワーデバイス分野では、劇的な低損失化を実現するSiC（シリコンカーバイド）を中心に、他社にはない幅広い製品展開と強化を図っています。2015年には、SiCの更なる低損失化・小型化を実現するダブルトレンチ構造を採用した世界初のSiC-MOSFETを開発し、量産を開始しました。このSiC-MOSFETの登場により、SiCデバイスは次のステップへ進むことができ、SiCデバイスの普及に弾みがつくと考えています。また、独自のパワーデバイス技術とLSIによる制御技術、そしてこれらを組み合わせるモジュール技術の3つの技術を融合することで、お客様に最適なパワーソリューションも提供しています。

太陽光発電や風力発電、変電所、電気自動車など、さまざまな箇所で発生する電力変換ロスを劇的に改善する優れた新製品を開発し、広く社会に供給することで、社会全体の省エネルギー化に貢献していきたいと考えています。

世界をリードする小型・ローパワー技術が生む、さまざまな世界最小デバイス

小型・ローパワーの分野では、抵抗器やトランジスタ、ダイオードにおいて、その性能と高い信頼性が認められ、世界中で採用が進んでいます。

なかでも、ローム独自の新工法・新技術を取り入れることで誕生した、世界最小部品「RASMID®（ラスミッド）」シリーズなど、さまざまな種類のデバイスで世界最小サイズを実現しており、普及の進むスマートフォンやタブレットはもちろん、今後に期待されるウェアラブル機器の小型化や高機能化に大きく貢献します。

今後も独自の最新鋭・高効率の製造ラインを積極的に導入して、品質の安定と生産性を向上させるとともに、特長あるデバイス開発とラインアップ強化を進め、LSI技術との融合やモジュール化技術を活かした技術提案、製品提供を加速してまいります。

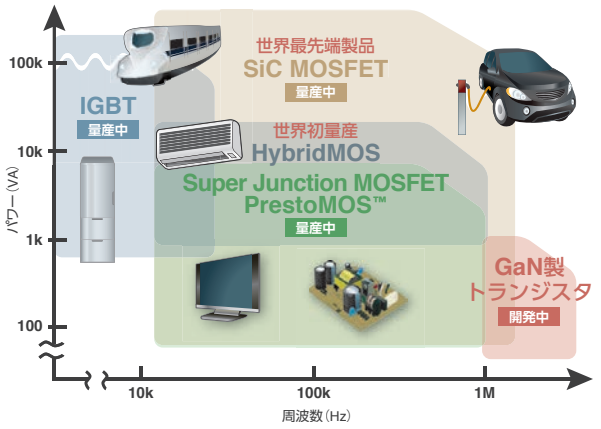
社会システムの省エネ化に貢献する最先端パワーデバイス

Power Devices / Discrete Semiconductors

Si、SiC、GaN、すべての素材の特性を活かしたデバイス開発

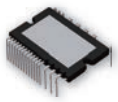
業界をリードするSiCデバイスを中心に、大電力域での省エネ化を実現できるパワーデバイスのラインアップ強化を進めています。SiC以外のデバイスについても、素材の特長を活かした開発を進めており、それぞれがディスクリートデバイスからモジュールまで、多彩なラインアップを取りそろえ、お客様の用途に応じた最高のソリューションを提供します。

SiCを中心にパワーデバイスをラインアップ



＋ 制御技術 & モジュール技術

最適化された制御回路を内蔵し、設計負荷軽減に貢献



MOS-IPM

複数個のパワーデバイスを搭載し、さらなる大電流に対応

フルSiCパワーモジュール

IGBT
大電力、高耐圧のパワー用途に適したトランジスタ。

Super Junction MOSFET
高速スイッチングと低オン抵抗を実現したMOSFET。

HybridMOS
IGBTとSuper Junction MOSFETのそれぞれの良い特性を1チップで実現したトランジスタ。ロームが世界で初めて量産化。

PrestoMOS™
Super Junction MOSFETを改良し、
低損失化を実現したローム独自のMOSFET。

SiC MOSFET
大電流、高耐圧デバイスに適した新素材シリコンカーバイドを使用したMOSFET。ロームは世界最先端、最高性能で業界をリード。

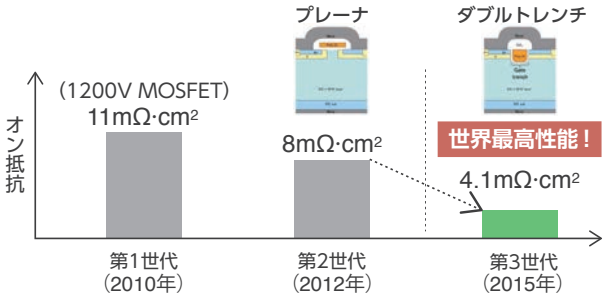
GaN製トランジスタ
大電流、超高速スイッチングが可能な素材ガリウムナイトライドを使用したトランジスタ。ワイヤレス給電などの市場で期待されている。

SiCデバイスの進化に向けた取り組み

ロームは、省エネの切り札といわれるSiCデバイスの普及に貢献するべく、生産効率の向上を図るとともに、既に圧倒的な性能を実現しているSiCにおいて、さらなる低損失化を可能にするダブルトレンチ構造のSiC-MOSFETを世界で初めて開発・量産するなど、SiCデバイスの進化に向けて積極的に取り組んでいます。

6インチ基板でのSiCデバイス本格量産

世界初！ ダブルトレンチ構造採用SiC-MOSFET(第3世代)



世界初！ SiC-MOSFET専用AC/DCコンバータ制御IC

電子機器の小型・軽薄化に貢献する超小型・小信号デバイス

Small Signal Devices / Discrete Semiconductors

世界トップの小型・ローパワー技術でさらなる躍進

ロームがかねてより得意とする小型・ローパワー技術を追求しています。機器の小型・薄型化が進む、スマートフォンやウェアラブル機器など市場の小型化要求に対し、世界最小デバイスのラインアップ拡充を図っています。

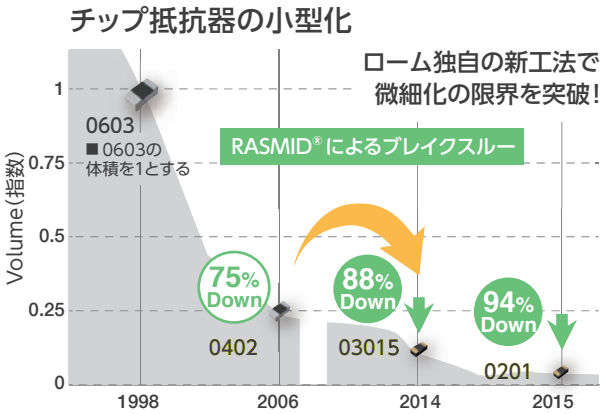
超小型、高性能で世界をリードする RASMID®シリーズ

RASMID®シリーズ

ローム独自の新工法を用いて小型化を実現し、驚異的な寸法精度を誇る世界最小部品シリーズ

世界最小クラス / 量産中	チップ抵抗器 SMR003	0.3×0.15mm 薄さ 0.1mm
世界最小※ / 開発中	チップ抵抗器 0201	0.25×0.125mm 薄さ 0.08mm
世界最小クラス / 量産中	ダイオード SMD0603	0.6×0.3mm 薄さ 0.3mm
世界最小※ / 量産中	ダイオード SMD0402	0.4×0.2mm 薄さ 0.12mm

※ローム調べ



トランジスタをはじめ世界最小ラインアップで電子機器の小型化をサポート

世界最小クラス / 量産中	導電性高分子タンタルコンデンサ TCSO (Mケース)	1.6×0.85mm 薄さ 0.8mm
世界最小クラス / 量産中	手振れ補正ホール素子 RHS-0122シリーズ	1.2×0.5mm 薄さ0.3mm
世界最小クラス / 量産中	超小型低背チップLED PICOLED®シリーズ	1.0×0.6mm 薄さ 0.2mm
世界最小※ / 量産中	タンタルコンデンサ TCT (Uケース)	1.0×0.5mm 薄さ 0.55mm
世界最小※ / 開発中	トランジスタ VML0604	0.6×0.4mm 薄さ 0.36mm
世界最小※ / 開発中	超小型低背チップLED PICOLED®シリーズ	0.8×0.45mm 薄さ 0.2mm

※ローム調べ

実績ある幅広い製品群が アプリケーションの高機能化に貢献

Modules

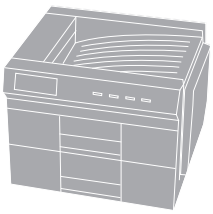
半導体レーザ

光ディスクやレーザプリンタ・複写機などで多く使われており、業界トップシェアを争っています。直近ではモーションセンサや位置検出センサなどの新規分野の創出に向けて開発を進めています。

高速・高精細化

マルチビームレーザ

RLD4BPMP2　RLD2BPNK5



レーザプリンタ

オプティカルモジュール

高輝度・高感度・高信頼性の光センサと、社内各部門との技術コラボレーションにより製品化した複合モジュールの開発を行っています。また、車載・産業機器分野への展開として、より高信頼性ラインの構築に取り組んでいます。

高精度に感知

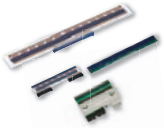
一体型近接センサ

スマートフォン

サーマルプリントヘッド

レシートプリンタや物流バーコードプリンタなどで使われているサーマルプリントヘッドでは、高信頼性の厚膜印刷技術・薄膜成膜技術に加えて、独自に開発した高性能ドライバICを活用することで、業界トップシェアを獲得しています。

充実のラインアップ

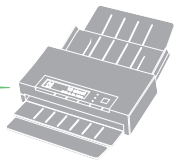


レジスタ

コンタクトイメージセンサヘッド

ドキュメントスキャナなどで使われているコンタクトイメージセンサヘッドでは、高速・高感度センサや独自に開発した均一分布光源を活用した製品を開発しています。また、非可視光を用いた特殊光源の開発を進めて、紙幣鑑別などのセキュリティ分野向け製品の開発にも取り組んでいます。

小型化に貢献



スキャナ

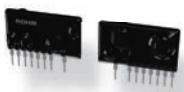
電源モジュール

スイッチング電源モジュールでは、民生機器から産業機器と幅広い分野のニーズに合わせたモジュールを開発しています。内製の高機能LSIや小型・低損失ディスクリートデバイスを採用し、小型化・高効率と高品質を実現しています。

セットの電源の小型化・軽量化に貢献

BP529シリーズ

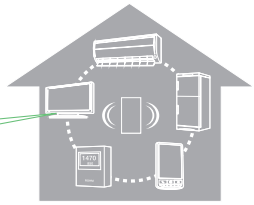
BP522シリーズ



無線通信モジュール

近距離無線の各種方式規格に準拠した無線通信モジュールを豊富にラインアップしています。コア部品となるベースバンドICからモジュール化まで、すべて社内で一貫した開発・生産を行っており、高品質、安定供給と充実した開発サポートを実現しています。

国内電波認証取得済み



HEMSのイメージ

ロームグループとバリューチェーン

バリューチェーンとは、調達した原材料から、製品やサービスとなって使用されるまでの一連の流れのなかで付加価値を高めていく活動です。ロームグループでは、バリューチェーンを通じてCSR活動を推進するなかで、さまざまなステークホルダーの皆様との対話を行っています。2014年度はこれらの社内外のステークホルダーの皆様のご意見、ご要望、ご関心、ご懸念をISO26000の中核主題に沿って検証し、6つの「CSR重点課題」を新たに設けました。

お客様

お取引先様

社員

株主・投資家の皆様

社会・地域の皆様

ステークホルダーの皆様との対話

材料調達 → 開発・生産 → 販売・物流 → 使用 → 廃棄・リサイクル

ロームグループのバリューチェーン

ISO26000中核主題

[ISO26000とは]
国際標準化機構（ISO）によってマルチステークホルダー・プロセスで開発された、あらゆる種類の組織に向けた、社会的責任に関する規格。

- 組織統治
- 人権／労働慣行
- 環境
- 公正な事業慣行
- 消費者課題（お客様への対応）
- コミュニティへの参画および発展

経営品質の革新

Management
Quality
Innovation

ロームグループでは、企業におけるCSR（企業の社会的責任）を経営品質ととらえ、それを高めるための活動をグローバルに行っています。

ロームグループの「CSR重点課題」

1 革新的な製品による社会的課題の解決

2 高品質な製品の安定供給

3 国際社会に貢献できるグローバル人財の育成

4 バリューチェーンにおける人権尊重の徹底と労働慣行などへの配慮

5 地球環境に配慮した事業活動の推進

6 事業を通じた地域コミュニティへの貢献

CSR経営について …… P.19～

ロームグループの「CSR重点課題」（マテリアリティ）
ISO26000に沿って6つの「CSR重点課題」を特定 ‥ P.20～
ステークホルダーの皆様との対話を重視して ‥ P.21～

ISO26000中核主題と活動
組織統治 …… P.23～
人権/労働慣行 …… P.27～
環境 …… P.29～
公正な事業慣行 …… P.31～
消費者課題（お客様への対応） …… P.33～
コミュニティへの参画および発展 …… P.35～

CSRの目標・計画と実績 …… P.39～

ステークホルダーの皆様との相互信頼関係を強化し、ロームグループの持続的な成長と、社会の健全な発展に努めます。

ローム株式会社
管理本部・CSR本部
本部長　**山﨑 雅彦**

会社の品質のさらなる向上へ向け CSR本部を設置

近年、CSR（企業の社会的責任）の重要性がさらに高まるなか、半導体・電子部品業界では、お客様は単に品質が良いだけでは製品の購入の判断はされず、QCDS（＝品質、コスト、納期、サービス）などの「製品品質」に、CSRを重要な要素とする「経営品質」を加えた「会社の品質」という総合的な見方で製品の購入を判断される傾向が強まっています。

このような社会の変化を的確にとらえ、お客様をはじめとする世界中のステークホルダーの皆様から選ばれる企業を目指すとともに、「会社の品質」をさらに向上させるべく、2014年11月、ロームにCSR本部を設けました。

ロームグループでは創業当時から、「企業目的」「経営基本方針」を具現化し、CSRを実践してきました。今後もグループ全体で「国連グローバル・コンパクト」「ISO26000」「EICC（電子業界CSRアライアンス）行動規範」といった、ステークホルダーの皆様の声が反映された国際規範に基づく活動を指標として織り込み、事業活動におけるCSRへの取り組みを強化してまいります。

「CSR重点課題」を特定し 実践状況を検証

ロームグループでは、「事業による社会的課題の解決」や「事業活動が社会に及ぼしかねない悪影響の解消・緩和」のために、これまでもさまざまなステークホルダーの皆様との対話を積極的に重ねてまいりました。

しかしながら、企業を取り巻く社会的要請はますます厳しさを増しています。そこで、社内外のステークホルダーの皆様のご意見やご要望、ご関心、ご懸念事項を検討し、6つの「CSR重点課題」を特定しました。

また、これらの実践状況をより客観的な立場から検証するため、第三者監査機関によるEICC行動規範に基づくEICC監査を、2013年度より国内外主要生産拠点にて自主的に受審しています。

社会的課題の解決を通じて社会とともに成長

気候変動や資源不足、労働・人権問題などの課題は深刻化し、解決を求める声がさらに強まることが予想されます。すべてのステークホルダーの皆様とともに持続可能な社会を実現していくためには、これらの課題にバリューチェーン全体を通じ、取り組むことが重要です。

ロームグループでは、社員一人ひとりがこのような課題を認識し、事業活動を通じて解決することで、社会とともに成長できる企業を目指します。

ISO26000に沿って6つの「CSR重点課題」を特定

ーサステナビリティ・レポーティング・ガイドライン第4版に準拠ー

ロームグループはCSRの視点から事業活動を検証するため、2011年よりISO26000に準拠し、7つの中核主題それぞれについて課題を特定し、活動を行っています。

2014年には、さまざまなステークホルダーの皆様との対話に基づいてISO26000に沿って特定した課題をさらに精査し、新たに6つの「CSR重点課題」を特定しました。

そして、本報告書とウェブサイトにおいて、国際的NGO（非政府組織）である「グローバル・レポーティング・イニシアチブ（GRI）」が発行する「サステナビリティ・レポーティング・ガイドライン第4版（G4）」に準拠し、報告しています。

■ 6つの「CSR重点課題」とG4開示項目

「CSR重点課題」	該当するG4の側面と指標 （　）内は指標を示す	重点課題の選定理由
1. 革新的な製品による社会的課題の解決	大気への排出（G4-EN17）	CO_2排出などによる気候変動、資源・エネルギー問題など地球規模の環境問題に対する解消・緩和と省エネルギー化が社会から求められています。ロームグループではさまざま社会的課題を解決するための革新的な新製品、新技術の開発を進めています。
	製品およびサービス（G4-EN27）	
2. 高品質な製品の安定供給	間接的な経済影響（G4-EC8）	ロームグループの製品は、お客様の最終製品などの機器に組み込まれて使用されており、その品質低下や供給停滞がお客様や消費者へ悪影響を及ぼす恐れがあります。こうしたリスクを最小限にとどめ、安定的かつスピーディに高品質な製品を供給する体制を維持するため、組織体制の強化や全社的なBCP（事業継続計画）訓練などを実施しています。
	コンプライアンス（G4-PR9）	
3. 国際社会に貢献できるグローバル人財の育成	雇用（G4-LA3）	経済のグローバル化が進行するなか、ロームグループでは生産拠点や販売、流通拠点を世界各地に設け、各地域における異なる背景、価値観を受容し、協働して新しい価値を生み出すことができる多様な人財を育成しています。
	多様性と機会均等（G4-LA12）	
4. バリューチェーンにおける人権尊重の徹底と労働慣行などへの配慮	保安慣行（G4-HR7）	バリューチェーンがグローバルに拡大するなか、途上国などにおける人権への配慮、労働環境の改善、腐敗防止が求められています。ロームグループでは、国連グローバル・コンパクトやISO26000、EICC行動規範などの国際規範に基づき、これらに配慮しながら事業活動を推進しています。また、自社のみでなくバリューチェーンにおいても、EICC行動規範などの遵守に努めています。
	サプライヤーの社会への影響評価（G4-SO9、10）	
	サプライヤーの人権評価（G4-HR10、11）	
	サプライヤーの労働慣行評価（G4-LA14、15）	
	労働安全衛生（G4-LA6、7）	
	腐敗防止（G4-SO4）	
5. 地球環境に配慮した事業活動の推進	大気への排出（G4-EN5、15、16、17、18、20、21）	CO_2排出などによる気候変動、資源・エネルギー問題など地球規模の環境問題に対する解消・緩和と省エネルギー化が社会から求められています。ロームグループでは環境問題を解決する革新的製品を開発するだけでなく、製造する際の環境負荷を全生産拠点において低減することで、持続可能な社会の実現に努めています。
	排水および廃棄物（G4-EN23）	
	水（G4-EN8）	
	エネルギー（G4-EN3）	
	サプライヤーの環境評価（G4-EN32、33）	
6. 事業を通じた地域コミュニティへの貢献	地域コミュニティ（G4-SO1）	事業活動を行う上でコミュニティとの対話を通じた地域の発展・活性化は重要です。グローバルに事業を展開するロームグループとして、常に事業地域における社会的課題を解決する取り組みを進めています。

指標に関しては40ページをご参照ください。

ステークホルダーの皆様との対話を重視して

ー6つの「CSR重点課題」を特定ー

ロームグループでは、事業を展開するうえで、常に異なるステークホルダーの皆様との対話の機会をグローバルに設けています。この対話のなかでいただいたあらゆるステークホルダーの皆様のご意見、ご要望、ご関心、ご懸念を検討し、ロームグループとしてISO26000に沿って「CSR重点課題」を特定しました。

特定した6つの「CSR重点課題（前ページ）」については、外部有識者や専門家など、さまざまな立場のステークホルダーの皆様の視点から妥当性を評価していただいています。さらに、目標・計画（Plan）を実現・達成するための取り組み（Do）とその実績については、客観性を確保するため、第三者機関の外部監査による検証（Check）を行い、次の目標・計画を決定（Act）し、6つの「CSR重点課題」の取り組みについて、定期的にPDCAサイクルによるレビューを実施しています。

25ページをご参照ください。

お客様との対話

意見交換会（ワイガヤ会議※1）など

株主・投資家の皆様との対話

投資家向け説明会・対話など

社員との対話

ワールドカフェ※2など

お取引先様との対話

製品開発・技術動向説明会など

社会・地域の皆様との対話

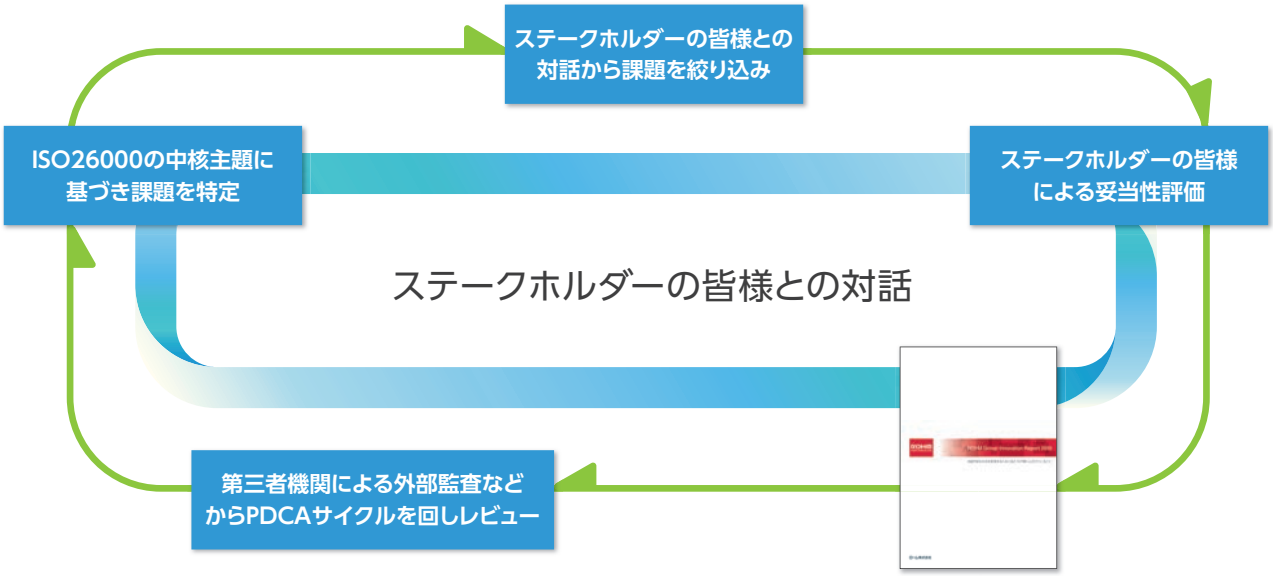
地域との対話および工場見学など

※1 ワイガヤ会議とは・・・
ワイワイガヤガヤと、自由に意見を交わす会議。

※2 ワールドカフェとは・・・
短時間でたくさんの人の意見を集め、全員が発言することができる会議。

その他の対話機会
http://www.rohm.co.jp/web/japan/csr1/csr-steakholder

■「CSR重点課題」の特定プロセス



ROHM Group Innovation Reportの発行

「CSR重点課題」の妥当性について

EICC監査の第三者監査機関として

2014年、国内ロームグループのEICC VAP(Validated Audit Process)監査を実施しました。通常、監査はサプライヤーが顧客の依頼を受けて実施するものですが、ロームグループでは自発的に主要な生産拠点すべてを対象にして実施されています。監査では従業員だけでなく、生産拠点の警備担当者など請負で仕事をされている方もすべて対象に含まれます。その準備として網羅的にトレーニングが行われており、レベルの高い運用を確認することができました。経営層から受付の方まで、会社の方針や運用状況を自分の言葉で語られるなど、積極的に監査に対応され、どれだけ会社が前向きに取り組まれているかを肌で感じることができました。

ハイレベルな運用の一方、労働安全のリスクの洗い出しについて十分でない点や、不適合ではないものの、環境面においてグループとしてステークホルダーの期待にさらにこたえられると感じる部分がありました。それらはGRI G4に準拠した報告の重点課題として地球環境に配慮した事業活動の推進など、新たに特定され、既に展開されています。さらにバリューチェーンにおける人権尊重の徹底と労働慣行などへの配慮は、ロームグループのマネジメントの重要な部分にシステムとして埋め込まれ、例外を許さない毅然とした運用がなされています。社長自ら直接サプライヤーに重要性を伝える取り組みは顧客やサプライヤーに評価され、社員が会社に誇りを持って働くという良いサイクルにつながります。事業を通じた地域コミュニティへの貢献については、本業がいかに重要視され、今までも掲げられている「革新的な製品による社会的課題の解決を通じて成長すること」が地域コミュニティへの貢献であるとする決意がうかがえます。間接的ではありますが、第三者として問題点や課題をこれからも提示し続けることで、ロームグループの透明化向上のお役に立てれば幸いです。

ビューローベリタスジャパン株式会社
執行役員
システム認証事業本部
カスタマイズドサービス部
部長
岡崎 久喜 様

組織統治

ロームグループでは、ステークホルダーの皆様の立場に立ち、企業価値の向上と持続的な成長を目指し、公正性、健全性、透明性に根ざした事業活動を行うよう、コーポレート・ガバナンスの充実に努めています。

コーポレート・ガバナンス体制

複数の独立社外役員が参画する取締役会

ロームでは、経営環境の変化が激しい半導体業界にあって、ロームグループの事業や技術に精通した取締役自らが執行権を持つと同時に相互に監督しあうことが、ロームに適した機動的かつ実効性の高い経営・統治システムであると考えています。

そのうえで取締役会は、執行権を持つ社内取締役8名に、執行権を持たず監督に徹する社外取締役（独立役員）2名を加えた構成とし、「十分な議論を踏まえた的確で迅速な意思決定」と実効的な「相互監督」を両立させています。

独立性のある社外監査役で構成する監査役会

経営の公正性や透明性を確保するため、従来より監査役会を設置し、それを構成する5名の監査役は全員を独立した社外監査役としています。

各監査役は、取締役との面談、取締役会などの重要な会議への出席や業務の調査などを通じて、取締役の業務執行が適切かつ適法に行われるよう監査機能を遂行しています。

コーポレートガバナンス報告書
http://www.rohm.co.jp/web/japan/investor-relations/library/corporate-governance

内部監査部門

ロームでは、内部監査部門として監査室を設置しています。監査室は、ロームグループ全体の業務について、社員との面談や文書・帳票類の査閲、社内規定の準拠性、資産の健全性などを監査しています。

また、監査役や会計監査人とも連携し、監査の計画、実施報告、問題点などを相互に共有し、監査の精度向上に努めています。

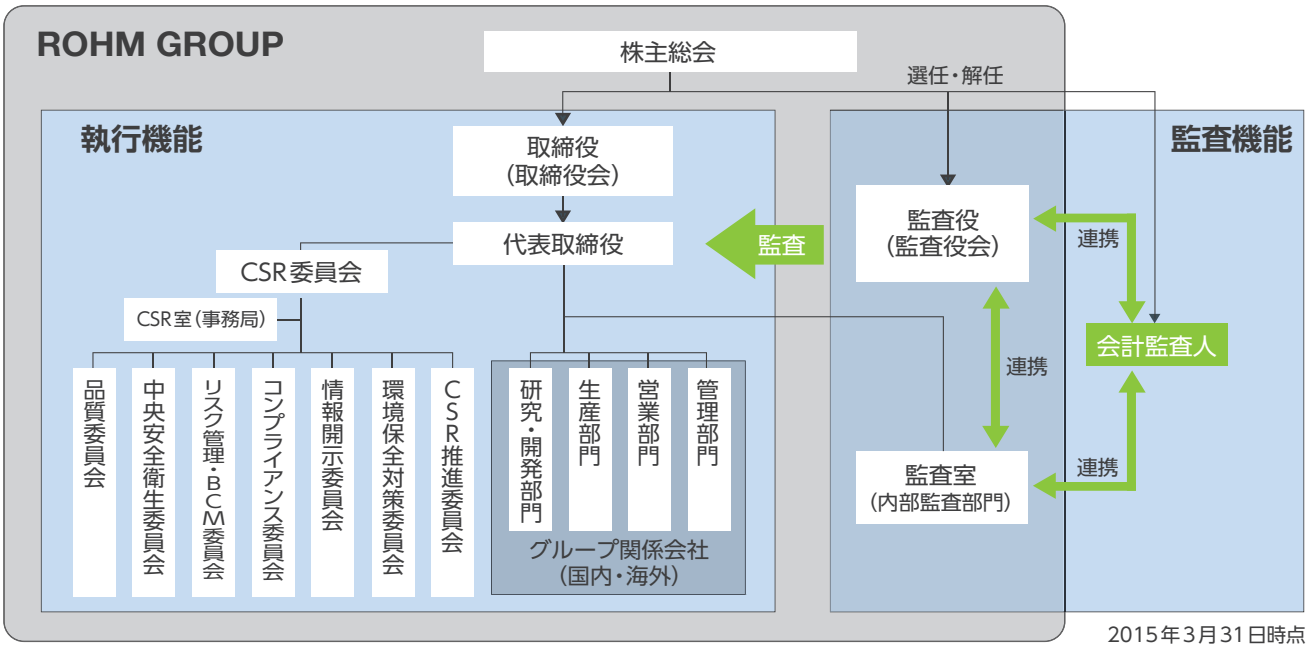
ロームグループのCSRの考え方

社会の持続可能な発展への貢献

ロームグループは、創業当時より「企業目的」「経営基本方針」などの目的・方針の実践を通じて、ステークホルダーの皆様との相互信頼関係を構築することで、グループの持続的な成長と、社会の健全な発展に貢献してきました。

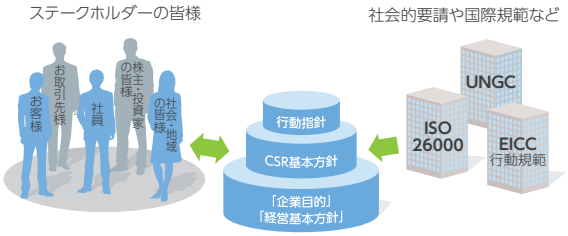
この「企業目的」「経営基本方針」などを基盤として、CSRの側面から、グローバルな視点で誠実に事業活動を行い、社会の持続的な発展に貢献するために定めたものが「ロームグループCSR基本方針」であり、これらをより確実に実行していくうえでの倫理上の基本ルールを定めたものが「ロームグループ行動指針」です。

■ コーポレート・ガバナンス体制図



2015年3月31日時点

「企業目的」「経営基本方針」などの目的・方針は不変ですが、「ロームグループCSR基本方針」および「ロームグループ行動指針」は、ステークホルダーの皆様のご期待にこたえていくために、変化する社会的要請や、国連グローバル・コンパクト(UNGC)、ISO26000、EICC(電子業界CSRアライアンス)行動規範といった最新の国際規範などに沿って、進化していきます。



ロームグループ行動指針
http://www.rohm.co.jp/web/japan/rohm-group-business-conduct-guidelines

EICC(電子業界CSRアライアンス)行動規範とは

主に電子機器関係のメーカや大手サプライヤーによって構成される団体が策定した規範。「労働」「安全衛生」「環境」「倫理」とこれらに関連した「マネジメントシステム」からなる。

CSRマネジメント

CSRに関する意思決定と責任

ロームグループでは、全取締役とそれに準ずる権限を持つ部門長から構成されるCSR委員会が環境・社会・ガバナンスなどの全社にまたがるCSRテーマに関する責任を担っており、代表取締役社長が委員長を務めています。

また、CSR委員会では下部組織として7つの委員会を持ち、各分野において検討された目標、施策、実績などを踏まえ、合議のうえ意思決定を行っています。CSR委員会における決議事項は、7つの委員会を通じローム社内関連部門とグループ関係会社へ伝達され、施策が実行されます。

7つの委員会の各委員は、毎年度実施計画決定と同時に各委員会委員長により任命され、活動をはじめます。

CSR室は、CSR委員会の運営を統括する事務局の役割を持つとともに、CSR関連の各種外部監査機関との窓口としても機能しています。

■ ロームグループCSR基本方針

われわれは、「企業目的」「経営基本方針」などの目的・方針に則り、グローバルな視点で誠実に事業活動を行い、社会の持続的な発展に貢献します。また、以下のとおりあらゆるステークホルダー(利害関係者)の皆様と良好な関係を構築し、社会からの信頼を得て、企業の持続的な発展を目指します。

お客様	われわれは、お客様に対しては、優れた品質、性能を有する商品と適時的確なサービスを安定的に供給することにより、お客様の満足と信頼を得ることを目指します。また、お客様への誠実な対応を心がけ、商品の安全性を最優先し、それに関する情報の適切な開示に努めていきます。
お取引先様	われわれは、お取引先様に対しては、公正で合理的な基準によってお取引先様を選定するとともに、お取引先様との信頼関係を大切にし、対等かつ公正な取引を行い、お互いが繁栄することを目指しています。
社員	われわれは、社員に対しては、安全・快適で働きやすい職場環境を確保するとともに、人間性と個性を尊重し、公正で明るい職場をつくり、一人ひとりの働きがいを高めることを目指しています。
株主・投資家の皆様	われわれは、株主・投資家の皆様に対しては、継続的な企業価値の向上を実現させ、適正な利潤を確保することにより、株主・投資家の皆様へ還元することを目指すとともに、積極的かつ幅広いIR活動を通じて説明責任を果たしていきます。
社会・地域の皆様	われわれは、社会・地域の皆様に対しては、各国、地域社会との交流を深め、それぞれの文化、慣習を尊重するとともに、社会貢献活動や文化・芸術活動などの実施または支援活動を行います。また、事業活動を通じた地球環境保全活動を積極的に行います。

組織統治

第三者機関による外部監査を活用して客観性を確保

ロームグループでは、自らが決定した目標・計画(Plan)を実現・達成するための取り組み(Do)とその実績を評価するうえで、客観性を確保するため、第三者機関による外部監査による検証(Check)を行っています。

ここでいう外部監査とは、下表「マネジメントシステムの取得・運用状況」中に記載した「マネジメントシステム認証/顧客要求」についての監査です。

品質、環境、労働安全衛生、情報セキュリティの各分野においてマネジメントシステムの認証を取得しており、内部監査を実施し、外部監査を受審しています。また、これらに加え、EICCに関するお客様監査の他、内部監査を実行するなど独自のマネジメントシステムを構築し、自主的に外部監査を受審しています。

それらの結果をCSR委員会で検討し、次の目標・計画を決定(Act)しています。このように、第三者による客観的評価を活用してCSR経営のPDCAサイクルを回しています。

お客様からのEICC監査(CSR監査)

多くの電子機器メーカは、サプライヤーがEICC行動規範などのCSRに関する基準を満たしているかどうかを検証するために「EICC監査」を実施しています。

ロームグループでも、こうしたEICC監査を受審しており、お客様による監査を自らの経営品質を高めるための重要な機会と位置付けています。これらの監査でご指摘いただいた事項を着実に改善することで、CSRマネジメントの更なる基盤強化を図っています。

CSR月間

ロームグループではCSRマネジメントに関する社内の理解を深めるため、2013年度より10月を「CSR月間」と定め、CSR研修を通じた啓発活動やEICC監査対応などの取り組みを展開しています。

「CSR月間」を通じてロームグループの全社員にCSRの重要性を理解してもらうことにより、グループ一丸となってCSRへの取り組みを強化し、社会からの期待に応え、世界中のステークホルダーの皆様から選ばれる企業を目指しています。

EICC監査を受審することでCSRの全方面におけるマネジメントシステムを確立しています。

EICC行動規範に基づく第三者機関による「EICC監査」を自主的に受審することで、ロームグループの主要拠点で認証している品質・環境・安全衛生のマネジメントシステムの運用状況を確認するとともに、これまで実施していなかった「労働・倫理」のマネジメントシステムを新たに構築し、PDCAサイクルを回しています。CSR委員会事務局のCSR室が中心となりEICC行動規範の遵守に向け社員教育を実施し、グループの総力を挙げてEICC監査に対応しています。

ローム株式会社 CSR本部 CSR室
室長　村井 俊文

■ マネジメントシステムの取得・運用状況

テーマ		マネジメントシステム認証/顧客要求	取得状況
製品品質		ISO9001	ロームグループ各社でISO9001の認証を取得しており、主要生産拠点はISO/TS16949の認証も取得。
		ISO/TS16949	
経営品質(事業活動の品質)	環境	ISO14001	ロームグループ各社でISO14001または、それに準拠したマネジメントシステムを構築。 ※ロームと国内関係会社、ROHM Korea Corporationは統合システムによる第三者認証を取得。 海外グループ会社はISO14001規格に基いた自己宣言による環境マネジメントシステムを構築。
	労働安全衛生	OHSAS18001	ロームが2013年3月に取得。 ロームグループ国内外生産拠点での取得を目指し活動を展開中。
	情報セキュリティ	ISO/IEC27001	ロームが2013年7月に取得。
	労働・安全衛生・環境・倫理マネジメントシステム	EICC VAP監査※	ロームグループ各生産拠点で2年に1度、第三者機関による監査を受審。

※EICC VAP監査:VAPとは"Validated Audit Process"の略。EICC行動規範に対する第三者監査のこと。

株主・投資家の皆様とのコミュニケーション

適時適切なIR活動

IR(インベスター・リレーションズ)活動を担当する部門として広報IR室を設置し、世界中の株主・投資家の皆様に対して、業績動向をはじめとする企業情報をタイムリーに開示するなど、積極的なコミュニケーションを図っています。

また、ディスクロージャーポリシーを定め、公正で正確な情報のタイムリーな提供に努めています。

ディスクロージャーポリシー
http://www.rohm.co.jp/web/japan/investor-relations/disclosure-policy

ホームページでの情報開示

個人投資家の皆様にもタイムリーに情報を提供するため、ホームページに株主・投資家の皆様向けのページを設けています。

決算短信、有価証券報告書、コーポレートガバナンス報告書などの開示書類に加えて、アニュアルレポート、決算説明会資料、財務データの推移など幅広い投資関連情報をわかりやすく掲載しています。

投資家情報
http://www.rohm.co.jp/web/japan/investor-relations

決算説明会/インフォメーションミーティング

社長および各取締役による決算説明会を年2回開催し、海外投資家訪問も年2回程度実施しています。

また、証券会社主催のカンファレンスなどにも積極的に参加しています。

個人投資家向け説明会

個人投資家の皆様向けに、ロームの会社概要、事業戦略、業績動向などを広報IR室責任者がご説明させていただく説明会を、国内にて継続して開催しています。

社会的責任投資における評価

企業の社会・環境・倫理的側面を投資の判断基準とする社会的責任投資(SRI)において、ロームはSRI関連評価機関から高い評価を受け、さまざまなSRIインデックスの構成銘柄に選定されています。

■ ロームが組み入れられている主なSRIインデックス

FTSE4Good	MS-SRI モーニングスター社会的責任投資株価指数 Morningstar Socially Responsible Investment Index
FTSE4Good Indexes Series	モーニングスター社会的責任投資株価指数

PICK UP　ステークホルダーの声　海外生産拠点から

United States of America

EICC監査を受審し、お客様の信頼を獲得

アメリカの生産拠点では2014年10月に、お客様によるEICC監査を受審しました。監査に備え、事前にCSR監査対応チームを発足させ、監査項目ごとにチェックリストを用い、徹底した準備を図った結果、高得点で監査をクリアし、お客様に満足いただくことができました。

Kionix, Inc.
Vice President / CFO
Stephen G. Hughes

人権/労働慣行

ロームグループはバリューチェーン全体で人権尊重の徹底と労働慣行への配慮を推進しています。

サプライチェーンにおける人権尊重

お取引先様に人権への配慮を要請

ロームグループでは、国連による「世界人権宣言」や、ビジネスと人権に関する指導原則である「ラギー・フレームワーク」を尊重しています。そこで、取引基本契約書に「非人道的、差別的取り扱いの禁止」や「強制労働、児童労働の禁止」などの人権尊重条項を規定し、締結を通じてお取引先様に人権への配慮をお願いしています。

また、「CSR調達推進説明会」の開催や「ロームグループCSR調達ガイドライン」の配布、「CSR調達監査」などを通じて、サプライチェーン全体における人権尊重の啓発活動も行っています。今後もグローバルにお取引先様と協働しながら、活動を継続していきます。

雇用における人権・多様性の尊重

「労働における基本原則および権利」を尊重

ロームグループは、国際労働機関(ILO)による「労働における基本原則および権利」を尊重しています。

ロームグループの規範としては、「労働基本方針」のなかで「人権の尊重、差別的な取り扱いの禁止」「雇用の自主性」「児童労働の禁止」「結社の自由」を定め、社員一人ひとりの人間性と個性を尊重し、働きやすい職場環境を構築することを宣言しています。

ロームグループ労働基本方針
http://www.rohm.co.jp/web/japan/csr1/csr-laborsystem

ディーセント・ワークの実現に向けて

ロームでは、「経営基本方針」に定める「健全かつ安定な生活を確保し、豊かな人間性と知性をみがき、もって社会に貢献する」ことを目的とし、ディーセント・ワーク専門部会を設け、運営しています。

同専門部会は、労働・倫理のマネジメントシステムを管理する委員会機能を有し、労働時間管理目標の設置やリフレッシュデーの導入などの過重労働防止に向けた取り組みや、社員向け教育を行うとともに、その効果をリスクアセスメントや内部監査を通じて検証し、マネジメントレビュー時の資料として報告しています。

> ディーセント・ワークとは：国際労働機関が提唱する21世紀の労働・倫理に関する主目標であり、人間らしいやりがいのある仕事のこと。

ワークライフバランスの推進

ロームでは、結婚、妊娠、出産、育児、介護などのライフイベントを迎えても継続して就業できるよう、諸制度の整備を図っています。

子どもが小学校3年生になるまでの短時間勤務制度や、育児休暇の一部を有給化する制度を導入しています。

さらに、育児・介護などによる勤務時間の柔軟化を目指し、始業・終業時間の繰り上げ繰り下げ制度を導入しました。

また、東日本大震災以降、ボランティア活動の重要性が見直されていることから、2012年度にボランティア休暇・休職制度を導入しています。

人財育成

グローバルレベルでの人財交流推進により社員の成長を支援

ロームでは、20代を中心とした若手社員を海外関係会社に短期派遣する実務研修制度を2012年度に開始しました。

2013年度から毎年2名程度を海外に派遣し、現地マネージャーのもとで実務経験を積むことで、将来、海外と連携して業務を行うために必要な国際的な感覚を早期に身につけることが目的です。管理系職種からスタートし、2015年度からは全社に対象を拡大していく予定です。

また、海外現地法人の社員を一定期間実務研修生として本社に受け入れる制度も活発に行っており、2014年度は研究・開発・営業職を中心に、中国・韓国・フィリピンから11名の受け入れを行いました。

帰国後は現地法人の将来を担う人財に成長し、日本と現地をつなぐインターフェースとしての活躍を期待しています。

ロームにおける研修の様子

労働安全衛生

ローム本社20年間休業災害ゼロを達成

ロームでは、中央安全衛生委員会のもと、労働災害発生件数ゼロを目標として、「リスクアセスメント」や「社内パトロール」を実施しています。

その結果、2014年度まで20年間連続で休業災害ゼロを達成しています。

国内外の生産会社においても、労働災害発生件数ゼロを目標として、各社ごとに安全衛生管理に取り組んでいます。

また、年1回「法令遵守チェックシート」を用いて各社の安全衛生関連法などに関する理解度・遵守状況を確認しています。

海外生産拠点における表彰

フィリピンの生産拠点では、安全衛生に関する優れた取り組みやその成果を評価され、フィリピン労働雇用省により、銅賞を受賞しました。

■ 度数率（ロームグループ）

$$度数率（災害発生の頻度）= \frac{労働災害による死傷者数}{延べ実労働時間} \times 1{,}000{,}000$$

■ 強度率（ロームグループ）

$$強度率（災害の重さの程度）= \frac{延べ労働損失日数}{延べ実労働時間} \times 1{,}000$$

■ ご参考…電子部品・デバイス・電子回路製造業平均値　度数率：0.24／強度率：0.01
出典：厚生労働省 平成25年労働災害動向調査（事業所調査（事業所規模1,000人以上）および総合工事業調査）結果の概況より

社員の健康づくり

海外生産拠点における健康づくりプログラム

タイの生産拠点では、タイ政府の専門機関であるThai Health Promotion Foundationと協働で、社員や食堂シェフに対する食育を行っています。

また、社内コンビニエンスストアに「ヘルスステーション」を新設し、健康飲料を取り扱うほか、自由に使用できる体重計や血圧計も用意し、社員の健康意識を高める仕組みづくりを行っています。

PICK UP　ステークホルダーの声　タイ政府の専門機関から

Thailand

Thai Health Promotion Foundation（タイヘルス※）と協働で健康づくりプログラムを実施

タイにおいて、経営層と社員が同じ想いを持ち、職場健康づくりを推進している企業は、いまだ少ないのが現状です。そのようななか、ロームグループのタイの生産拠点では、タイヘルスが推進するHappy Workplace Programを活用しつつ、中長期的なビジョンを持ち、健康的で快適な企業風土の実現に向けて一丸となって取り組まれており、真摯な姿勢に感銘を受けました。

※タイヘルス：タイ国民の健康増進に特化したタイ政府の専門機関

Thai Health Promotion Foundation
Happy Workplace International Project
Director
大和 茂 様

環境

ロームグループでは、環境方針を軸に、地球環境に配慮したさまざまな活動を実施しています。

地球環境保全に向けた取り組み

ロームグループでは、環境方針を軸としたさまざまな環境保全活動を進めています。環境に貢献する企業活動は、環境に優しい製品をつくると同時に、つくる際の環境負荷を削減することであると考えています。

特に地球温暖化防止については、自社の事業活動にともなうCO_2排出量やその他の温室効果ガスの削減に意欲的に取り組んでいます。

また、今後は生物多様性の観点からも長期的な目標設定や方針を定め、持続可能な社会を実現するための取り組みを行っていきます。

環境に関する詳細情報（環境データブック）
http://www.rohm.co.jp/web/japan/environment

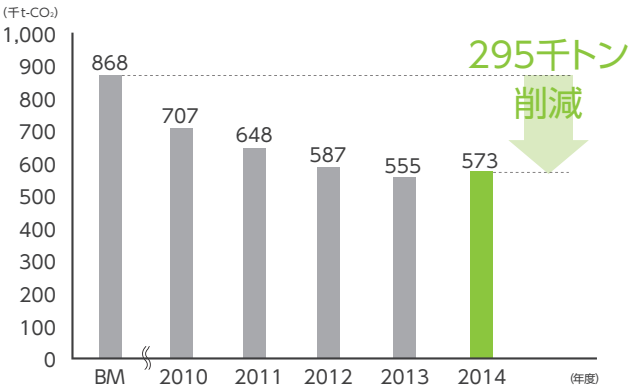
環境負荷削減

CO_2およびその他温室効果ガス排出量削減

(1) CO_2排出量削減

ロームグループでは、省エネルギー対策を計画的に推進していくため、個々の生産設備・付帯設備の使用電力、オフィスのエネルギーなどの見える化を進め、ムダなエネルギーを削減し、その対策内容を水平展開しています。

■ エネルギー消費によるCO_2排出量推移



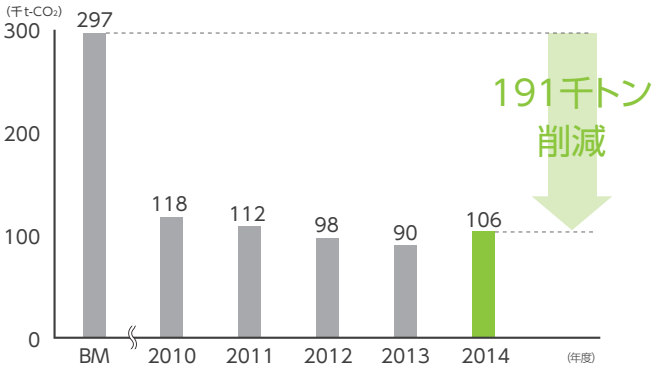
ベンチマーク（BM）：2005年（国連気候変動枠組み条約第19回締約国会議基準年）

(2) 温室効果ガス排出量削減

PFC（パーフルオロカーボン）ガス類はCO_2を大幅に上回る温室効果があるため、ロームグループ全体にPFCガス類の除害設備の設置を進め、2008年に電気・電子業界の目標を2年前倒しで達成した後も、排出量の削減に積極的に取り組んでいます。

また、2014年には、2011年度から2013年度における温室効果ガスの排出量削減活動について優れた実績を上げ、事業者排出量削減計画書制度の総合評価で「S評価」となった事業者として、ロームが京都市から表彰されました。

■ PFCガス類排出量推移

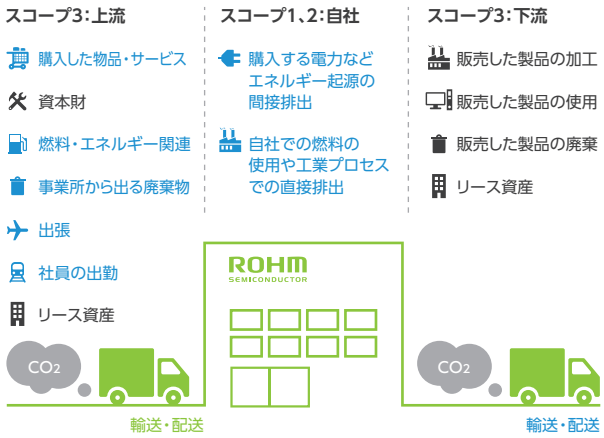


ベンチマーク（BM）：1995年（京都議定書基準年）

(3) バリューチェーンにおける温室効果ガス削減

自社だけでなくバリューチェーン全体を通じた温室効果ガスの排出量を把握することが社会的要請となっているなか、ロームではすべての事業活動から排出されるCO_2排出量の低減に取り組むため、算定範囲をスコープ 1、2からスコープ3まで拡大し、バリューチェーン全体のCO_2排出量を算定しています。

■ スコープ1、2、3においてロームが開示している項目（青字部分）



資源活用

廃棄物排出量の削減と再生資源化の推進

ロームグループでは廃棄物排出量の削減策として、投入する材料・副資材の適正化と歩留まり向上への取り組み、発生した不要物の分別の徹底による有価物化を進めています。

また、ロームグループでは廃棄物の再生資源化率99%以上をゼロエミッションと定め、2004年に国内グループ連結でゼロエミッションを達成後、真の100%を目指し継続中です（2014年度99.98%）。

環境配慮型製品

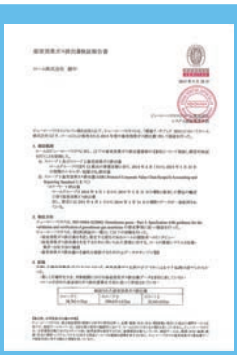
ロームグループでは革新的な製品による社会的課題の解決を目指し、新製品の開発段階で、その製品が過去の製品と比較してどれだけ環境に貢献しているか、具体的な数値で客観的に評価するため環境貢献度評価票を作成し、環境性能およびCO_2削減性能比較などが行えるシステムを構築しています。

特に製品使用時におけるCO_2排出量を削減する環境配慮型製品の開発割合を向上させる仕組みの導入を、開発部門と共同で進めており、2014年度は70%となっています。

第三者検証

環境負荷データに関して、より透明性、信頼性の高い形で社会に情報公開するため、ビューローベリタスジャパン株式会社による第三者検証を以下の内容で受審しました。

［ 検証範囲 ］　スコープ1、2：国内12拠点/スコープ3 カテゴリ4：輸送、配送（上流）：国内製造工場8拠点、国内物流センター1拠点、海外工場6拠点、海外販社10拠点、および国内外顧客間の製品輸送



検証報告書

検証を実施して（検証員のコメント）

国内12拠点および本社の集計状況の検証を通じて、各拠点では手順に基づき算出した数値を本社に報告する仕組みが確実に機能し、本社では自動計算による信頼性の高い集計が行われていることが確認されました。これらの取り組みによる効果がグループ全体に波及することが期待されます。

ビューローベリタスジャパン株式会社
テクニカル部 審査員グループ
主任審査員　橋本 佳和 様

PICK UP　ステークホルダーの声　海外生産拠点から

Germany

サーマルヒートポンプの導入によりCO_2を大幅削減

ドイツの生産拠点では、生産過程で発生する熱を抑えるため、多くの電力を必要とする冷却塔・チラーを設置しています。さらに冬季には、クリーンルームや施設の暖房においても電力を消費するため、CO_2の削減が課題となっていました。

そこで2012年より生産過程で発生した熱を暖房設備などに利用できるサーマルヒートポンプを導入し、環境負荷の削減に努めています。CO_2の削減量は2年間で約350トンで、地球温暖化防止に貢献しています。

SiCrystal AG
Procurement and Facility Department
Leader
Randolph Ketterer

公正な事業慣行

ロームグループはバリューチェーン全体を俯瞰し、グローバルで公正な事業の展開に努めています。

コンプライアンス

ロームグループ行動指針

ロームグループでは、日々の事業活動のなかで遵守すべき倫理上の基本的なルールを明らかにした「ロームグループ行動指針」を7ヵ国語に翻訳し、全社に展開するとともに、研修会や「リーガルeラーニング」などの社内教育・啓発活動を通じて、コンプライアンス意識の浸透および向上を図っています。

また、ロームグループとして対応すべき倫理規範として倫理基本方針を定めています。

2014年度は、10月の「CSR月間」のなかで部署別勉強会を開催し、社員への教育・啓発を実施しました。

ロームグループ行動指針

ロームグループ行動指針
http://www.rohm.co.jp/web/japan/rohm-group-business-conduct-guidelines

コンプライアンス・ホットライン

ロームでは、コンプライアンス・ホットラインを設置し、非正規社員を含む全社員から国内グループにおけるコンプライアンス違反に関する相談・通報を受け付け、違反の早期把握と適切な対応に努めています。

また、海外関係会社においてもコンプライアンス・ホットラインを設置しています。さらに、ロームと国内外の主要生産会社では、お取引先様向けのコンプライアンス・ホットラインを設置しています。

2015年度はコンプライアンス・ホットラインの制度の透明性を高めるため、国内グループにおいて外部の法律事務所に通報窓口を設置する予定にしています。

お取引先様向けコンプライアンス・ホットライン
http://micro.rohm.com/ssl/jp/contact/compliance/input_s.php

バリューチェーンにおける社会的責任の推進

サプライチェーン全体でのCSRの普及・浸透

ロームグループでは、サプライチェーン全体へCSRを普及・浸透させることが、企業として重要な使命と考え、CSR調達活動を推進しています。2014年度は、フィリピン、タイ、マレーシア、中国（大連、天津）、韓国における海外6生産拠点で、お取引先様208社を対象とした「CSR調達推進説明会」を開催し、ロームグループのCSR調達の考え方や取り組みをお伝えするとともに、CSRにおいて情報の共有化、相互協力および相互成長を目指していく提案をさせていただきました。

2013年12月にスタートしたCSR調達監査において、2014年度は国内9社、海外6社、計15社のお取引先様の拠点で実施しました。文書確認や工場確認を通じてEICC行動規範との整合性を確認するとともに、お取引先様とのCSRパートナーシップの構築を図っています。

また、改善提案をさせていただいた事項については再度訪問し、改善状況の確認や意見交換を通じてCSRのより一層の浸透に努めています。

2015年度はグループをあげて、海外のお取引先様へのCSR調達監査の拡充と拡張を図っていきます。

CSR調達監査の様子

お取引先様を訪問し、CSR調達監査を実施しました。

グローバルで社会的要請になっているサプライチェーンにおけるCSRの推進にこたえるため、2014年5月、マレーシアの生産拠点では、ローム本社とタイの生産拠点の調達担当者と合同で、マレーシアのお取引先様を訪問し、CSR調達監査を実施しました。監査では実際に書類や工程を確認し、EICC行動規範への遵守をお願いしました。今後もフォローアップ監査などを通じてお取引先様とCSR調達におけるWin-Winの関係を築いてまいります。

ROHM-Wako Electronics (Malaysia) Sdn. Bhd
Administrative Division
Deputy General Manager
Wong Pui Li

紛争鉱物への対応（コンフリクト・フリー）

2010年7月に米国金融規制改革法が成立し、その後、2012年8月に米国証券取引委員会（SEC）が最終的に規則として採択したことから、米国の証券取引所に上場している企業は、コンゴ民主共和国およびその近隣周辺地域で産出され武装勢力や反政府組織の資金源となっている紛争鉱物（金、すず、タンタル、タングステン）の使用状況に関する調査をサプライチェーンに対して実施しています。

ロームグループはそのサプライチェーンとして製品単位でコンフリクト・フリーの製錬所の調査・特定を進めています。

今後も、お客様に安心してローム製品を使用していただけるよう紛争鉱物のコンフリクト・フリーに向けた取り組みを一層進めていきます。

知的財産

特許出願および特許の動向

ロームでは、創出された発明を効率的に活用するため、外国においても積極的に権利化を図っています。特に市場や競合他社などの関係を考慮し、米国以外の国への出願も行っています。

また、効率的に特許権などを運用するため、自社・他社ともに製品・事業などの実施が見込めない特許などについては、再評価を行うなど適切な資産・経費の管理を行っています。

リスクマネジメント・BCM

リスクマネジメント・BCM体制

ロームグループでは、事業活動が経済、環境、社会に及ぼす影響のうち、好影響をロームグループにとっての「機会」ととらえ、CSVにつなげ、さらに発展させることを目指しています。

一方で、及ぼす、あるいは及ぼしかねない悪影響を「リスク」ととらえ、これを防止・抑制し、最小限にとどめるための対策を講じています。

「リスク」対策の検討はCSR委員会の下部組織であるリスク管理・BCM委員会が担当しており、災害だけでなく人権や環境などに関わるリスクをマップ化し、これを委員会にて年に4回見直しています。

こうした「リスク」のうち、極めて重大なものとして「災害による生産拠点などの操業停止や減産がお客様や社会全体に及ぼす悪影響」を想定しており、BCM（事業継続マネジメント）に注力しています。

また、作成したBCP（事業継続計画）の浸透を図り、実効性を検証するため、各生産拠点でBCP訓練を実施しています。

タイの生産拠点におけるBCP訓練の様子（止水壁の組み立てと排水ポンプの起動訓練）

PICK UP　ステークホルダーの声　海外生産拠点から

China

お取引先様を対象にCSR調達推進説明会を開催

中国大連の生産拠点では2014年11月、41社から67名のお取引先様をお招きし、CSR調達推進説明会を実施しました。ロームが目指している「持続可能な社会の構築」と「ロームと社会との継続的な成長」に向けての取り組みについて説明した後、お取引先様から多くの質問をいただき、活発な議論を交わすことができました。今後もお取引先様と情報を共有し、より良いサプライチェーンの構築に向けた取り組みを進めてまいります。

ROHM Electronics Dalian Co., Ltd.
管理部 購買課 課長　曲 軍

消費者課題（お客様への対応）

ロームグループは「品質第一」を追求し、高品質な製品を社会に供給し社会の発展に貢献することを使命として事業を展開しています。

品質の確保

品質第一の追求

ロームグループでは、新製品の開発・設計、工程設計から生産システムの開発、原材料の手配、そしてすべての生産プロセスにおいて細心の注意を払い、かつ営業をはじめ管理部門に至るまで、全社員が企業目的にある「品質第一」を追求し、常に高い品質を意識し、お客様に満足していただくための活動に日々取り組み、努力しています。こうした活動を継続するため、品質保証体制の強化・運用に努め、品質管理・品質保証に関して全社員に徹底した教育を実施しています。

品質委員会

ロームグループでは、よりレベルの高い品質改善活動で世界をリードする「品質」を実現するため、お客様視点に立ち全社組織を横断する形で国内外主要14生産拠点に品質委員会を発足させ活動しています。

“お客様視点の品質”向上に取り組み、お客様に満足いただける高品質な製品を、そしてより高い品質保証体制の実現を図るため、各種専門部会を設置し活動を行っています。これらの活動により、これまで以上にお客様に満足していただける製品・サービスの提供を全社一丸となって推進し、ステークホルダーの皆様の信頼を獲得し、社会への貢献に努めています。

「品質フォーラム2014」の開催

2014年12月、ロームグループの全生産拠点で行われている品質改善のための小集団活動において、ロームグループの品質向上と水平展開を目的とし、ローム本社にて「ローム品質フォーラム2014」を開催しました。

この品質フォーラムでは、日頃、生産現場で改善活動を行っている全世界から総勢150名の作業担当者や管理監督者が一堂に集結して自らの小集団活動の成果を発表しました。この場でそれぞれの成果を共有・水平展開することで、これまで以上に品質改善活動のレベルアップが図られました。

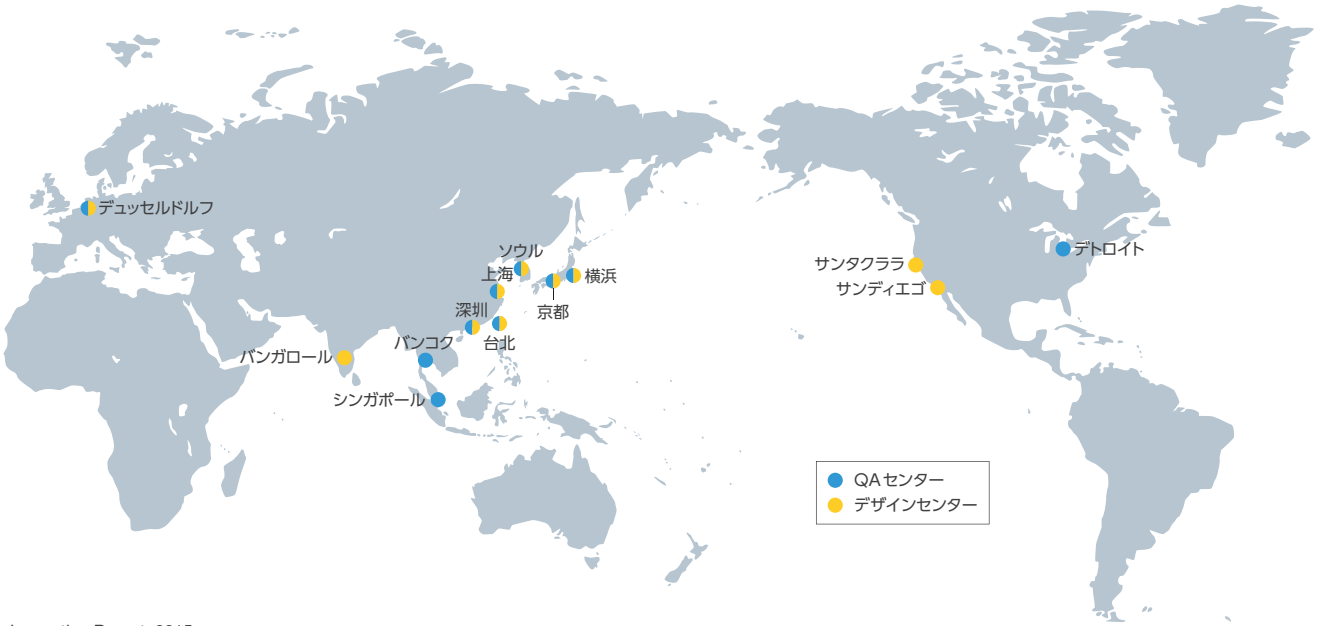
また、これらのロームグループの生産拠点では、今回の品質フォーラムで得られたことを自らの品質改善活動に結びつけ、よりステップアップを図っています。

QA/デザインセンター

ロームグループでは、常にお客様に最も近い所で品質対応を行えるよう国内・海外10ヵ所に「QA（Quality Assurance：品質保証）センター」と名づけた各種解析装置を備えた製品解析センターを設置しています。

技術に精通したスタッフが地域に密着した対応を行うとともに、このQAセンターで過去の品質問題をあらゆる角度から細かく分析することで問題の真因を明らかにし、また、ローム本社の品質部門と連携を図り、二度と同じ品質問題を起こさないように対策を講じています。

■ ロームグループ品質・デザイン グローバル体制



また、製品を開発・設計するにあたって、お客様の要望をしっかりと把握し、要望に合った製品を迅速に提供するため、世界各地に開発拠点となる「デザインセンター」を設置しています。開発・設計者も現地化することで、より現地のニーズに合わせた新製品を生み出す「真のグローバル化」を推し進めています。

お取引先様とのパートナーシップによる材料品質向上

ロームではこれまでも、お取引先様と品質目標を共有し、パートナーとして高いレベルの品質の実現を目指すことを理念とした活動を進めてきました。2014年度は、例年11月に開催される全国一斉の品質月間を機に、お取引先様の役員の方々とロームの役員がそれぞれ描く品質のあり方を共有するステークホルダーダイアログを開催しました。また、ロームグループの品質保証について、車載向け材料と一般向け材料にわかりやすくまとめ直した「サプライヤー品質保証マニュアル」を日本語、英語、中国語で作成し、お取引様に配布しました。今後も、お取引様と協力し、より一体化したグローバルなサプライチェーンの構築・強化を図っていきます。

サプライヤー品質保証マニュアル

顧客満足度向上に向け全社を挙げて取り組んでいます。

お客様からより一層信頼していただくためには、お客様に近い場所で迅速なサポートを行うことが必要不可欠です。台湾の開発・販売拠点においても、最高のサポートが行えるよう、営業・開発・品質・管理部門が一体となって取り組みを進めており、QCDS（=品質、コスト、納期、サービス）の「S：サービスとは何か?」などの勉強会を開催しています。

今後も顧客満足度の向上に向け、営業スキルの底上げ、ロームのDNAの徹底・浸透を目指してまいります。

ROHM Semiconductor Taiwan Co., Ltd.
President (Attorney-at-Law)
Administration Division
General Manager
Olivia Liao

秘密情報保護

情報セキュリティマネジメントに基づく取り組み

ローム戦略情報システム部では情報セキュリティマネジメントシステムの認証である、ISO/IEC27001を取得し運用しています。これに基づきセキュリティレベルの継続的な向上を図り、ステークホルダーの皆様にとってのビジネスリスクを低減していきます。

PICK UP　ステークホルダーの声　海外生産拠点から

Malaysia

「品質フォーラム2014」へ参加して品質改善事例を共有

「品質フォーラム2014」にマレーシアの生産拠点から参加して、品質改善事例を発表するとともに、各拠点の代表者による品質改善事例を共有できました。今回のフォーラムは業務の効率化だけでなく、より安全で働きやすい労働環境の実現と、取り組みを開始したロームプロダクションシステム※の実現にもつながると考えています。品質フォーラムは、品質の重要性を改めて認識できるよい機会になったと考えています。

ROHM-Wako Electronics (Malaysia) Sdn. Bhd.
PSM/PMDU Middle Process DIODE 1
Norma Adariah Bt. Derani

※ ロームプロダクションシステムについては、7ページをご参照ください。

コミュニティへの参画および発展

ロームグループでは「教育」「文化・交流」「環境・地域貢献」の3つを軸に
社会貢献活動をグローバルに展開し、社会の持続的な発展に貢献しています。

社会貢献活動

教育

ロームグループの技術を活かし、豊かな人間性と知性を備えた次世代の人財育成に貢献する。

文化・交流

社内外で文化的交流を積極的に行うことにより、地域社会と社内の活性化に努める。

環境・地域貢献

企業市民として、環境の保全を心がけ、自主的かつ積極的に取り組める活動を行う。

災害被災地復興支援活動

マレーシア洪水被災地復興支援

2014年12月にマレーシアのマレー半島北東部を中心に洪水が発生しました。被災された方々の支援と被災地の復興にお役立ていただくため、ロームグループとして約500万円の義援金をケランタン州政府へ寄贈しました。また、マレーシアの生産拠点では、社員が組織するCSR推進委員会が中心となって、地域の人々に水や食料品などの生活支援物資を寄付するとともに、社員約80名が地元の養護学校に出向き、清掃活動を実施しました。

地元の小学校での寄付の様子

ありがと本

2012年12月より、公益財団法人信頼資本財団の「ありがと本」プロジェクトに賛同し、ロームグループとして活動に参加しています。「ありがと本」は、読まなくなった本、聴かなくなったCDなどを寄付することで社会貢献できるプログラムです。2015年3月時点で国内ロームグループで合計1万5千点以上の寄付品が集まり、東日本大震災で被災した子どもたちへの支援の輪が広がっています。

レッドベア サバイバル キャンプへの協賛

タイの生産拠点では、災害時に生き抜く知恵を楽しみながら学べる「レッドベア サバイバル キャンプ（国際交流基金バンコク日本文化センター、NPO法人プラスアーツなど主催）」に協賛しました。小学生160人が参加し、ロームの社員も講師としてイベントに参加しました。

バンコク都内の小学校で開催されたイベントに参加した子どもたちの様子

ゲーム形式で、楽しみながらチームワークの重要性を学ぶワークショップの様子

地域の災害対応力向上へ向け子どもたちと取り組んでいます。

タイでは2011年から洪水や地震などの災害が発生し、防災知識の必要性が高まっています。今回、私たちはレッドベア サバイバル キャンプに参加し、自然災害が起こった際の対応方法について将来を担う子どもたちに楽しみながら学んでもらいました。子どもたちの災害時の対応力が向上し、学んだ知識が周囲へ広がることで、地域全体の対応力が向上することを願っています。このような取り組みを通じて地域社会に貢献できることを、とても誇りに思っています。

ROHM Integrated Systems (Thailand) Co., Ltd.
MCR Division
Assistant Section Manager
Prasit Sarboonma

教育

未来のエンジニアへ向けた活動

小中高大の学生に向けたモノづくり授業の展開

近年、子どもたちのモノづくりの体験が少なくなり興味や関心が希薄になるなか、ロームでは小学生から大学生までの学生に向けたモノづくり授業を展開しています。

小学生向けの授業では、京都市教育委員会と協力し、ロームの創業製品である抵抗器と三色に光るLEDを組み合わせた工作を通じて、光の三原色やLEDの省エネ効果を学んでもらうとともに、子どもたちにモノづくりの楽しさを実感してもらっています。

また、立命館高等学校が主催する、世界中から科学を学ぶ高校生が集まり、考えや知識、夢を語り合う「Japan Super Science Fair」に参加し、自社技術についての講座を開催するとともに、ローム本社での会社見学の受け入れを行い、次世代のエンジニアを目指す高校生たちへエールを送りました。

小学生向けモノづくり授業の様子

NHK学生ロボコン・ABU（アジア太平洋放送連合）ロボコンへの協賛

ロームでは若きエンジニアを支援するために、さまざまな活動に協賛しています。NHK学生ロボコン・ABU（アジア太平洋放送連合）ロボコンもそのひとつです。2014年8月に開催された「ABUアジア太平洋ロボコン2014インド・プネ大会」では17ヵ国の代表が自作の親子ロボット2台を駆使し、対戦形式で課題の達成スピードを競いました。

課題を競う学生の様子

国内外の大学との産学協同研究

研究機関、大学、異分野企業との交流

ロームは、文化や社会の進歩向上に貢献できる技術を開発するためには、研究機関や大学、異分野企業と良き関係を築き、協力して取り組む必要があると考えています。特にグローバルで産学連携を推進するため、日本国内だけでなく、アメリカや中国など海外でも産学連携を積極的に進めており、先端知の研究や各地のニーズにこたえる製品の開発に取り組んでいます。

PICK UP　ステークホルダーの声　学校法人 立命館から

Japan

「Japan Super Science Fair（JSSF）2014」の開催

クリーンルームで半導体製造工程に目を輝かせ、最先端センサの説明では次々と質問が出る。世界の高校生がロームでの会社見学で見せた心躍る瞬間です。立命館高等学校ではJSSF2014を開催し、ロームにて参加生徒への講座と会社見学を実施いたしました。講座では、センサネットワークにより未来がどう変わるかを議論する機会を持ちました。生徒たちの活き活きとした姿に、実社会で応用されている最先端技術に触れる機会がいかに重要かを感じました。未来の科学技術を支える優秀な科学者、技術者がこの中から育ってくれることを願っています。

学校法人 立命館 一貫教育部 部長　田中 博 様

文化・交流

音楽文化への貢献・地域への文化支援活動

ロームシアター京都

ロームは長年にわたり音楽芸術を支援してきました。50年間京都市民の皆様に愛されてきた「京都会館」が再整備されるにあたり、その新しいコンセプトに共感し、今後、50年間のネーミングライツの形でサポートさせていただくことになりました。

2013年、京都市とロームは2016年1月に生まれ変わる京都会館のネーミングライツ名称を「ロームシアター京都」に決定しました。

「ロームシアター京都」が日本を代表する文化の殿堂として広く愛されることを願っています。

ロームシアター京都完成予想図（所在地：京都市左京区岡崎）

ロームシアター京都ホームページ
http://www.rohm.co.jp/web/japan/theater

公益財団法人 ローム ミュージック ファンデーション

継続的に音楽文化の普及、発展に寄与することを目的に、1991年に「財団法人 ローム ミュージック ファンデーション」を設立しました。2014年度は49名の奨学生を支援し、新たに国内外の音楽学校で学んだこれまでの奨学生によるフレンズコンサートを開催しました。これまでの奨学生は累計399名に上ります。また、国際交流と若手音楽家育成を目的とした「京都・国際音楽学生フェスティバル」の開催や、プロの音楽家を育成するための「音楽セミナー」、音楽に関する公演・研究への助成なども行っています。（2014年度事業費：約5億9,333万円）

ローム ミュージック ファンデーション ホームページ
http://www.rohm.co.jp/rmf

京都・国際音楽学生フェスティバル2014の様子

これまでの奨学生によるフレンズ コンサートの様子

PICK UP　ステークホルダーの声　世界的指揮者から

（上段）小澤征爾音楽塾オペラ・プロジェクトXIII ラヴェル：歌劇「子どもと魔法」の様子
（下段）同プロジェクト 子どものためのオペラの様子　©大窪道治

Japan

教育プロジェクト『小澤征爾音楽塾』の活動

今年もロームのご支援で『小澤征爾音楽塾オペラ・プロジェクトXIII 子どもと魔法』を実施することができました。ありがとうございました。今回も、1ヵ月にわたる練習・本番の過程で、塾生たちのめざましい成長を目の当たりにすることができました。これこそ、2000年にロームの名誉会長である佐藤研一郎氏と『小澤征爾音楽塾』を立ち上げた時から変わらず目指し続けていることであり、塾の伝統になっています。また、今回はじめての試みとして、京都で『子どものためのオペラ』公演が実現できたことも大きな喜びです。京都市の小学3・4年生を中心に2,000人の子どもたちに、この日のために作った日本語版『子どもと魔法』を聴いてもらいました。この演奏会が、音楽を好きになるきっかけとなってくれればと願っています。

指揮者
小澤征爾音楽塾
塾長・音楽監督
小澤 征爾 様

©Shintaro Shiratori

環境・地域貢献

地域への貢献と環境への配慮

イルミネーションにおける電力使用への配慮

ロームでは2014年11月から12月までの約1ヵ月間、本社でイルミネーションを実施しました。

電力は環境に配慮して、自然エネルギー（太陽光・風力・水力やバイオマスなど）で発電した「グリーン電力」と、京都版CO_2排出量取引制度を活用して、地域社会に協力するとともに温室効果ガスの削減を図っています。

イルミネーションの様子

製品を通じた社会・環境貢献

EnOceanを當麻寺（たいまでら）に採用

ロームは、電池、配線、メンテナンス不要なEnOcean（エンオーシャン）無線スイッチシステムを日本の寺社として初めて當麻寺（奈良県葛城市）に導入していただきました。

當麻寺は歴史的価値の高い建築物であるため、LED照明の設置にあたり、スイッチの配線工事による建物への影響が懸念されていましたが、EnOceanシステムを採用いただくことで文化庁の工事認可を得ることができました。

エネルギーハーベスティング（環境発電）を特長とするEnOceanの無線通信技術は、既にヨーロッパで高い評価を得ており、ビルなどに普及し、歴史的建造物への設置も進んでいます。

今後はビルや歴史的建造物における照明スイッチに加えて、盗難・不法侵入防止などのセキュリティ用途としても社会に貢献することが期待されています。

EnOcean無線スイッチ（左）と採用いただいた當麻寺講堂（右）

PICK UP　ステークホルダーの声　海外生産拠点から

Philippines

地域での「デング熱感染」に対する意識向上活動

フィリピンでは、特に1～12歳の子どもたちのデング熱感染が社会問題となっています。このため、私たちフィリピンの生産拠点では、デング熱感染の防止と、清潔な環境の重要性を十分に理解してもらうために、保健省と協働で、デング熱感染防止に向けた啓発活動に取り組みました。今後も引き続き地域社会に貢献していきたいと考えています。

ROHM Electronics Philippines, Inc.
Employee Management Council
Community relations Chairman
Elenel Manlapao

CSRの目標・計画と実績

ロームグループではISO26000に基づいたグローバルなCSRマネジメントを目指しています。そのために体制の強化を進めるとともに、ISO26000に準拠し、バリューチェーンを俯瞰して重点課題を析出し、取り組みテーマ、目標・計画を設定しています。

ISO26000中核主題	取り組みテーマ		2014年度目標・計画	2014年度実績	評価
組織統治	CSRマネジメント体制の維持・向上	CSR体制の強化	・国内生産6拠点にてEICC監査を受審する。	・ローム本社を含む国内主要生産8拠点にてEICC監査を受審。 ・ローム本社において、CSR本部を新たに設置。	★★★
		国際的なイニシアティブ・ガイドラインに基づいたCSR活動の推進	・EICC監査対応研修を実施する。 ・2013年度にCSR研修を実施していない拠点(アメリカ、台湾、韓国)で実施する。 ・CSR月間を通じてCSR意識調査、CSReラーニングを実施する。	・ローム本社を含む国内主要生産8拠点にて、社員、請負社員、常駐お取引先様へEICC監査対応研修を実施。 ・2013年度未実施の海外拠点においてCSR研修を実施。 ・CSR月間を通じてCSRについての意識調査・教育を実施。	★★★
		品質マネジメントシステムの維持・向上	・ISO9001マネジメントシステムを継続して維持・向上させる。 ※車載向け製品はISO/TS16949マネジメントシステムも維持・向上させる。	・ISO9001品質マネジメントシステムを維持・向上し、ISO9001およびISO/TS16949の認証を更新。	★★★
		環境マネジメントシステムの維持・向上	・ISO14001マネジメントシステムをロームグループで継続して維持・向上させる。	・ローム横浜テクノロジーセンターおよびラピスセミコンダクタのISO14001拡大認証を取得。	★★★
		労働安全衛生マネジメントシステムの維持・向上	・国内・海外主要生産拠点へのOHSAS18001自己認証展開を促進する。	・客観性を高めるため、自己宣言認証から第三者認証取得に計画を変更し、取得へ向け体制を整備。	★★★
		情報の保護・適切な管理	・セキュリティレベルの継続的な向上に向け、ISO27001(情報セキュリティマネジメントシステム)の認証更新を行う。	・ISO27001認証を更新。	★★★
		ステークホルダーダイアログの実施	・継続して政府機関/NPO/NGOとステークホルダーダイアログを開催するとともにCSVを通じて社会課題を解決できる製品開発の促進を図る。	・政府機関/NPO/NGOとステークホルダーダイアログを開催。 (第1回京都大学-UCサンディエゴ共同シンポジウムでの共同研究の打ち合わせ/中小企業基盤整備機構と連携し、中小企業と相互の技術についてマッチング会を開催など)	★★★
		労働・倫理のマネジメントシステムの展開	・引き続きロームグループにおいて労働と倫理のマネジメントシステムを展開する。	・ローム本社およびロームグループ主要生産拠点に労働・倫理に関する専門委員会を設置しマネジメントシステムを運用。	★★★
人権/労働慣行	人権の尊重		(2014年度目標・計画は「公正な事業慣行」へ移動)	・EICC行動規範における人権尊重の項目に基づきEICC勉強会の開催と、EICC監査を受審。 ・CSR調達セルフアセスメント実施。	—
	ダイバーシティの推進/働きやすい職場環境の整備		・女性が活躍できる職場風土づくりと人事制度の見直しを行う。 ・全社員の循環的な成長を目指した、組織風土変革推進委員会による風土改善を実現する。	・柔軟な短時間勤務制度の導入など、女性の働きやすい職場、制度づくりを推進。 ・組織風土変革推進委員会を通じて社員からの活発なフィードバックを促進。	★★★
	グローバルビジネスを担う人財の育成		・次世代リーダー研修の若年層(第二階層)への展開を図る。 ・グローバル人財の確保に向け、欧米・アジア各国における採用活動を積極化させる。 ・語学学習支援(環境や機会提供)を継続する。 ・グループ全体の情報共有を実現する、グローバル人事システム構築に向けた検討を行う。	・次世代リーダー研修を若年層へ新規実施。 ・欧米・中国などで多様な人財の採用活動を展開。 ・企業内語学スクールなど、社内のグローバル教育を強化。 ・グローバル人事システムの導入に着手。	★★★
	安全で働きやすい職場環境の構築		・ロームグループにおける労働災害発生件数ゼロを継続するため、労働安全衛生マネジメントシステムを展開する。 ・公正、透明な人事、給与制度を導入する。 ・適切な労務管理を実現するため、新たな勤務管理システムの運用を定着させる。	・OHSAS18001第三者認証を取得するため、労働安全衛生マネジメントシステムの構築を推進中。 ・2014年4月からの公正な評価、処遇を目的とした新人事・給与制度を一部導入。 ・労働時間管理をより適正化するため、2014年4月から新勤務管理システムを導入。	★★★
環境	「2020年度に向けた中期目標」を軸とした施策の展開	拠点におけるCO_2対策	・CO_2排出量を、2014年度生産量に応じた予測値より1%削減する。 ・CO_2排出量原単位を、2013年度実績より1%削減する。 ・温室効果ガス(PFCs、SF6など)排出量を、2014年度生産量に応じた予測値より1%削減する。	・CO_2排出量は、生産量に応じた予測値より1.5%削減。 ・CO_2排出量原単位は、2013年度実績より6.0%削減。 ・温室効果ガス排出量は、生産量に応じた予測値より1.2%削減。	★★★
		バリューチェーンを通じたCO_2対策	・スコープ3基準に準じた温室効果ガス運用モデルを策定し排出量を公開する。 ・売上高に占める環境配慮型製品の割合を60%にする。	・スコープ3基準に準じて、6カテゴリの温室効果ガス排出量を算定、公開。 ・売上高に占める環境配慮型製品の割合は62.9%。 ・CSR調達セルフアセスメントツール実施。	★★★
		環境汚染物質の削減	・PRTR対象物質取扱量原単位は、2013年度実績を維持する。 ・VOC排出量を、2014年度生産量に応じた予測値より1%削減する。	・PRTR対象物質取扱量原単位は、2013年度実績より6.5%削減。 ・VOC排出量は、生産量に応じた予測値より16.2%削減。	★★★
		資源の有効活用	・海外連結で廃棄物排出量原単位は、2013年度実績値を維持する。 ・水の投入量を、2014年度生産量に応じた予測値より1%削減する。 ・国内連結でゼロエミッションを維持し、廃棄物排出量原単位の2013年度実績を維持する。	・海外連結の廃棄物排出量原単位は、2013年度実績より7.4%削減。 ・水の投入量は、生産量に応じた予測値より6.5%削減。 ・国内連結でゼロエミッションを達成し、廃棄物排出量原単位は2013年度実績より8.7%削減。	★★★
		グリーン調達ガイドラインに則った化学物質管理の徹底	・ガイドライン指定物質の不使用/使用量遵守を継続する。	・ガイドライン指定物質の不使用/使用量遵守を継続。 ・CSR調達セルフアセスメント実施。	★★★
公正な事業慣行	「ロームグループ行動指針」に基づいた公正な事業活動を推進	コンプライアンス体制の強化	・階層別コンプライアンス教育を継続実施する。 ・社員向け「リーガルeラーニング」を実施する。 ・CSR月間においてコンプライアンスの啓発活動を継続実施する。 ・「法務ガイドブック」を活用したロームおよびロームグループ国内生産拠点での教育・啓発活動を継続実施する。 ・海外において2013年度に改訂した「Compliance Training Program」を使用した教育活動を実施する。 ・階層別教育などで贈収賄に関する教育を継続実施する。	・新入社員から新任管理職までの階層別コンプライアンス研修を継続実施。 ・EICCに関連した社員教育として労働および倫理に関する「eラーニング」を実施。 ・10月の「CSR月間」において、「法務ガイドブック」などを活用した職場教育を実施。 ・改訂した「Compliance Training Program」を使用した教育を海外関係各社において実施。 ・階層別研修の中で、贈収賄防止に関する教育を実施。	★★★
		公正な競争・取引	・CSR調達セルフアセスメントを継続実施し、時系列に分析し適切な回答を行う。 ・紛争鉱物報告テンプレートを用いた調査を継続するとともに、調査内容を細分化する。 ・グローバルで取引基本契約書の締結100%を目標に締結作業継続。 ・CSR調達監査をグループ会社においても実施。	・CSR調達セルフアセスメントを継続。項目ごとの傾向分析を実施。 ・海外お取引先様に対し、EICC基準に基づくCSR調達監査をグループ会社で試行実施。 ・紛争鉱物調査におけるデータベース化、プロダクトレベル検索可能環境の構築。 ・グローバルで取引基本契約書の締結を目標に締結作業継続。 ・CSR調達のホームページ掲載開始。	★★★
消費者課題(お客様への対応)	製品品質の確保		・新製品の設計品質の更なる向上と品質問題の徹底した分析、継続的な改善活動を実施する。	・不具合の徹底した真因追究で、再発防止を図るための恒久対策と水平展開を実施。 ・新製品設計時のデザインレビューで、過去不具合の分析で問題発生の未然防止を含めた品質改善活動を推進。	★★★
	安定供給のためのBCM(事業継続マネジメント)体制の維持・向上		・BCP(事業継続計画)の見直しを行い、教育訓練によって浸透を図る。	・事業活動におけるリスクを10段階評価したリスクマップを定期更新。 ・ローム一斉避難訓練およびBCM対策本部訓練を2014年度も実施。 ・リスクコンサルティング会社を招き、ロームにおいて講演会を2回開催。	★★★
	お客様から求められるニーズを的確に把握し、世界をリードする製品を開発		・CSV(共通価値の創造)について全社員に浸透するための施策を実施する。	・ハーバードビジネススクールの竹内教授を招き、CSV講演会実施。 ・社内啓発ビデオを制作し、ローム本社全社員が視聴済み。 ・社内報において、ロームのCSVに関する特集記事を掲載。 ・スコープ3基準に準じた排出量の公開。	★★★
コミュニティへの参画および発展	良き企業市民として社会の発展や健全化に貢献	音楽文化の普及・発展への貢献	・音楽文化に関する支援を継続する。	・地元京都の京都市交響楽団演奏会ほか、多くのコンサートへの協賛を実施。 ・小澤征爾音楽塾(若い音楽家の育成プロジェクト)を支援、また同プロジェクトで2014年度より新しく京都市の小学生を対象とした子どものためのオペラを支援。 ・公益財団法人 ローム ミュージック ファンデーションの事業を支援。	★★★
		広く社会のニーズに対応した適切な寄付や賛助活動	・社会のニーズをとらえた適時・適切な寄付・賛助活動を継続する。	・ロームシアター京都ネーミングライツ取得を通じて、京都会館の再整備を支援。 ・京都サンガF.C.や京都学生祭典のスポンサー企業として地域貢献。 ・マレーシアのコタバル市で発生した洪水被害に対する義援金寄贈を現地子会社と実施。	★★★
		地域社会からの要請に応じた活動	・継続して地域社会への支援、産官学連携の場の提供に努める。 ・社員参加型のモノづくり授業を開始する。	・ローム本社の若手社員が講師となり、小学生向けモノづくり授業・環境学習授業を実施。その他、高校生や大学生を対象に社員による講義を実施(総計1,923名)。 ・ローム記念館における大学生の研究プロジェクト支援。大学への奨学金設立。 ・ありがとう本活動を通じ、東日本大震災の復興を支援(2015年3月時点で計1万5千点以上を寄付)。	★★★

ロームグループの「CSR重点課題」

❶革新的な製品による社会的課題の解決
❷高品質な製品の安定供給
❸国際社会に貢献できるグローバル人財の育成
❹バリューチェーンにおける人権尊重の徹底と労働慣行などへの配慮
❺地球環境に配慮した事業活動の推進
❻事業を通じた地域コミュニティへの貢献

2015年度目標・計画	指標の範囲	該当するG4のカテゴリと側面	報告するG4の指標（2014年度実績）
・海外主要生産6拠点にてEICC監査を受審する。 ・EICC監査に対して監査マニュアルを策定し、グループの底上げを図る。	ローム	—	25ページにて開示
・海外主要生産6拠点にてEICC監査対応研修を実施する。 ・CSR月間に部署別勉強会などを開催しロームグループ行動指針の理解度を更に高める。			
・ISO9001品質マネジメントシステムを継続して維持・向上させる。 ※車載向け製品はISO/TS16949マネジメントシステムも維持・向上させる。			
・ISO14001マネジメントシステムをロームグループで継続して維持・向上させる。 ・ISO14001:2015版への対応を推進する。			
・国内・海外主要生産拠点においてOHSAS18001第三者認証を取得する。			
・引き続きISO27001の認証の維持・更新を行う。			
・NPO/NGOなどから講師を招き、CSVに関する勉強会を企画・開催する。			
・引き続きロームグループにおいて労働・倫理のマネジメントシステムを展開する。			
・海外主要生産6拠点にてEICC監査を受審し人権の尊重について更なる強化を図る。	ロームグループのお取引先様	❹サプライヤーの人権評価 G4-HR10、11	2014年度CSR調達セルフアセスメント結果(項目：人権) A評価：111社、A⁻評価：18社、B評価：12社、C評価：0社、D評価：0社
	国内生産拠点	❹保安慣行G4-HR7	業務関連の人権方針や手順について研修を受けた保安要員の比率：100%
・多様な価値観に合わせた働き方を実現する人事コース制度の整備。 ・社員の「ライフ」全般を支援するセミナーを開催、福利厚生サービスの拡充。 ・組織の壁を越えた社員間の活発な交流を促進する施策の実施。	ローム	❸雇用G4-LA3	出産・育児休暇後の復職・定着率：復職率94%、定着率100%
・次世代リーダー研修の選抜対象を拡大する。 ・グローバル共通の等級制度の展開による人財の発掘・育成を進める。 ・海外での採用活動の拡大を通じたグローバル人財の発掘・育成を進める。	ローム	❸多様性と機会均等 G4-LA12	外国人従業員比率：1.47%
・労働災害発生ゼロに向けて国内・海外主要生産拠点においてOHSAS18001認証を取得する。 ・新人事・給与制度を全社員へ展開する。	ローム	❹労働安全衛生 G4-LA6、7	<ローム[女性,男性]> 傷害の種類：切傷、障害率：[0.00000075,0]、業務上疾病率：[0,0]、休業日数率：[0,0.000084]、欠勤率：[0.0119,0.0068]、業務上の死亡者数：[0,0] <請負会社[男性のみ]> 傷害の種類：なし、障害率：[0]、業務上疾病率：[0]、休業日数率：[0]、欠勤率：[0.0037]、業務上の死亡者数：[0] 有害性のある業務に携わっている労働者の有無：有（対象者：422名）
・CO_2排出量を2015年度生産量に応じた予測値より1%削減する。 ・CO_2排出量原単位を2015年度に2014年度実績より1%削減する。 ・温室効果ガス（PFCs、SF6など）排出量を2015年度生産量に応じた予測値より1%削減する。	ロームグループ	❺大気への排出 G4-EN5、15、16、17、18、20、21	間接的な温室効果ガス排出量 スコープ1　CO_2排出量：52,580　t-CO_2 スコープ2　CO_2排出量：520,899　t-CO_2 スコープ3　CO_2排出量：832,635　t-CO_2（カテゴリ1,3,4,5,6,7） スコープ1,2排出量原単位:0.508(t-CO_2/百万円) 2014年PFCガス排出量(GWP-t):106,003 t-CO_2
・スコープ3基準に準じた温室効果ガス運用モデルを策定し公開カテゴリを拡大する。 ・開発製品に占める環境配慮型製品の割合を2015年度に75%とする。	ロームグループのお取引先様	❺サプライヤーの環境評価 G4-EN32、33	2014年度CSR調達セルフアセスメント結果(環境) A評価：131社、A⁻評価：8社、B評価：0社、C評価：1社、D評価：0社、未回答：1社
・PRTR対象物質取扱量原単位は、2014年度実績値を維持する。 ・VOC排出量を2015年度生産量に応じた予測値より1%削減する。	ロームグループ	❺排水および廃棄物 G4-EN23	2014年国内廃棄物排出量：6,783t 2014年海外廃棄物排出量：5,232t
・海外連結で廃棄物排出量原単位は、2014年度実績値を維持する。 ・水の投入量を、2015年度生産量に応じた予測値より1%削減する。 ・国内連結でゼロエミッションを維持し、廃棄物排出量原単位の2014年度実績を維持する。	ロームグループ	❺水G4-EN8	2014年総取水量：9,945千m^3
	ロームグループ	❺エネルギーG4-EN3	2014年度電力使用量：1,378,041MWh エネルギー消費によるCO_2排出量：573千t-CO_2
・新ガイドラインを発行し、グループ全体での運用徹底を図る。	ロームグループのお取引先様	❺サプライヤーの環境評価G4-EN32、33	2014年度CSR調達セルフアセスメント結果(環境) A評価：131社、A⁻評価：8社、B評価：0社、C評価：1社、D評価：0社、未回答：1社
・階層別研修を継続実施する。 ・社員向け「リーガルeラーニング」を継続実施する。 ・CSR月間においてコンプライアンスの啓発活動を継続実施する。 ・階層別教育などで贈収賄に関する教育を継続実施する。	ロームグループ	❹腐敗防止G4-SO4	腐敗防止の方針を含む「ロームグループ行動指針」を7ヵ国語に翻訳し、海外を含む全グループ会社全社員に配布。 階層別研修において腐敗防止の方針を含む「ロームグループ行動指針」の啓発を実施（2014年度は、本社316名が受講）。 コンプライアンス・ホットラインについては、31ページに記載。
・全グループ会社でCSR調達監査・再監査の伸張。 ・外注加工先様へのCSR調達活動開始。 ・紛争鉱物調査を継続。 ・阻害要因対策を行いながら取引基本契約書締結率98%超を目標に継続。 ・CSR調達セルフアセスメント継続。 ・お取引先様へセルフアセスメント結果のフィードバック。	ロームグループのお取引先様	❹サプライヤーの社会への影響評価G4-SO9、10	2014年度CSR調達セルフアセスメント結果(項目：倫理/危機管理体制の構築) A評価：76社、A⁻評価：25社、B評価：30社、C評価：6社、D評価：4社
		❹サプライヤーの人権評価G4-HR10、11	2014年度CSR調達セルフアセスメント結果(項目：人権) A評価：111社、A⁻評価：18社、B評価：12社、C評価：0社、D評価：0社
		❹サプライヤーの労働慣行評価G4-LA14、15	2014年度CSR調達セルフアセスメント結果(項目：労働慣行〔安全衛生〕) A評価：136社、A⁻評価：3社、B評価：2社、C評価：0社、D評価：0社
・新製品の設計品質の更なる向上と品質問題の徹底した分析で、品質改善活動を継続して推進する。	ロームグループ	❷コンプライアンス G4-PR9	PL法の違反に対する件数・罰金：なし 環境法規則の違反に対する件数・罰金：なし
・主要生産拠点が抱えるリスクの再調査を実施する。 ・BCPの見直しを行い、教育訓練によって浸透を図る。	—	❷間接的な経済影響G4-EC8	極めて重要なリスクとして「災害による生産拠点などの操業停止や減産がお客様や社会全体に及ぼす悪影響」を想定。
・CSVについて事例集を作成しグループ各社に水平展開する。 ・階層別教育などを通じて社会的課題と自らの業務との関連を明確にし、CSVの重要性の理解度を高める。	ローム	❶製品およびサービス G4-EN27	開発製品に占める環境配慮型製品の開発割合:70%
・音楽文化に関する支援を継続する。	ロームおよび地域の皆様	❻地域コミュニティ G4-SO1	1960年4月の開館以来、50年以上にわたり京都の「文化の殿堂」として市民に愛され、世界に冠たる文化・交流ゾーンである、京都市左京区の岡崎地域に位置する貴重な文化財産である京都会館を利用者のニーズに応えるよう京都市が全面的な再整備を行うにあたり、50年間（52億5千万円）の命名権取得を通じて支援。
・社会のニーズをとらえた適時・適切な寄付・賛助活動を継続する。			
・継続して地域社会への支援、産官学連携の場の提供に努める。 ・モノづくり教育のコンテンツを再考し、学生に興味のある教材を提供する。 ・地域に根差した社会貢献活動を展開する（積極的なボランタリー事例など）。	ロームグループ		モノづくり授業や工場見学などの地域社会からの要請に対して取り組みを実施した割合：100%

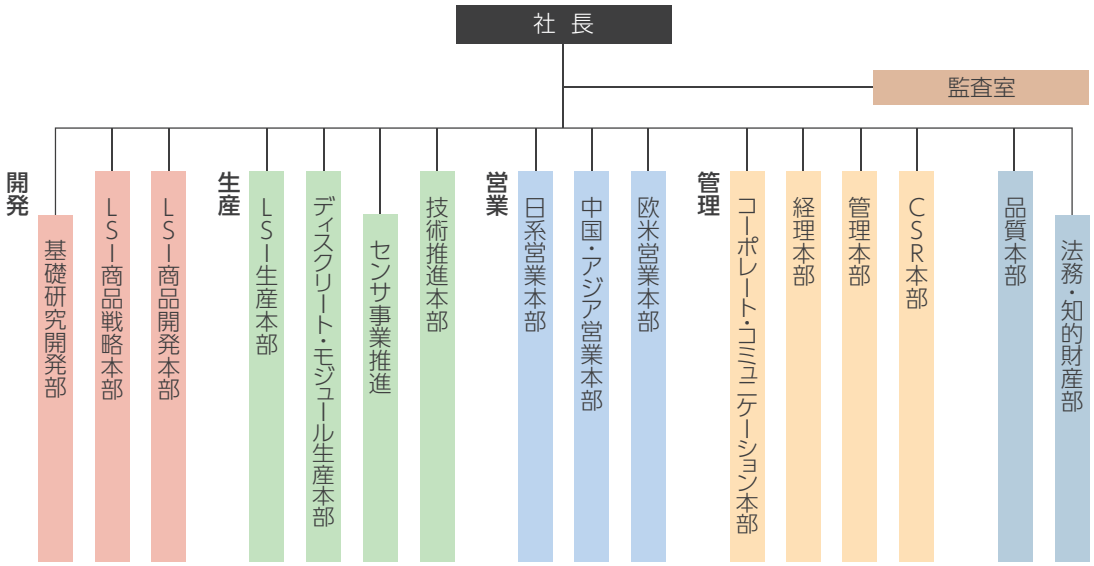
評価基準　★★★：目標・計画を達成　★★：目標・計画と実績に軽微なずれが生じた　★：目標・計画と実績に大幅なずれが生じた

会社情報

会社概要

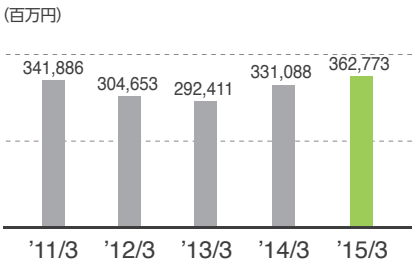
商　　号	ローム株式会社 / ROHM Co., Ltd.	代 表 者	代表取締役社長　澤村 諭
本社所在地	〒615-8585　京都市右京区西院溝崎町21 TEL (075) 311-2121　FAX (075) 315-0172	資 本 金	86,969百万円 (2015年3月31日現在)
		売 上 高	連結 362,773百万円 (2015年3月期)
設立年月日	1958 (昭和33) 年9月17日	社 員 数	連結 20,843人 (2015年3月31日現在)

会社組織図

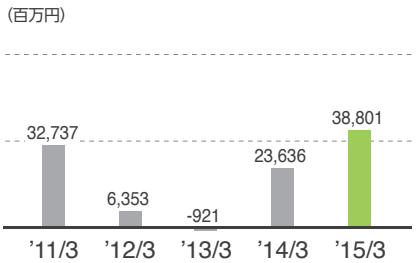


(2015年5月25日現在)

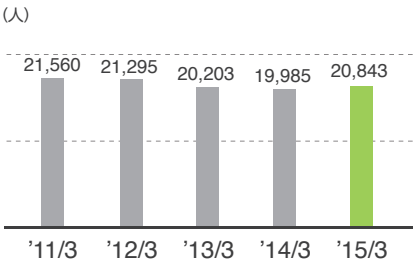
■ 売上高



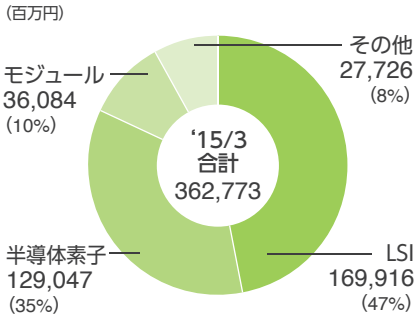
■ 営業利益



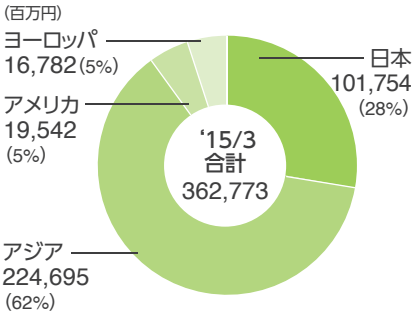
■ 社員数



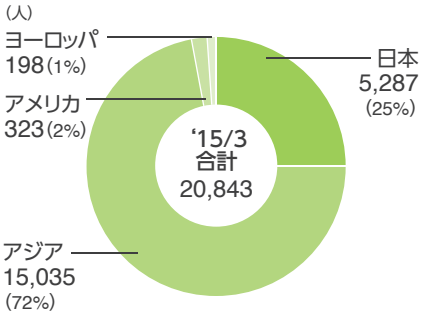
■ 事業別売上高



■ 地域別売上高



■ 地域別社員数



ロームグループ主要拠点

〈Japan〉

営業拠点

日系営業本部

京都	TEL:(075)365-1077	松本	TEL:(0263)34-8601
東京	TEL:(03)6280-0820	水戸	TEL:(029)300-0585
横浜	TEL:(045)476-2121	西東京	TEL:(042)648-7821
名古屋	TEL:(052)951-9311	仙台	TEL:(022)295-3011
福岡	TEL:(092)483-3496	高崎	TEL:(027)310-7111
宇都宮	TEL:(028)633-2271		

生産拠点

ローム株式会社	TEL:(075)311-2121
ローム浜松株式会社	TEL:(053)468-1000
ローム・ワコー株式会社	TEL:(0865)67-0111
ローム・アポロ株式会社	TEL:(0943)32-3000
ローム・メカテック株式会社	TEL:(0771)25-4717
ラピスセミコンダクタ株式会社	TEL:(045)476-9212
ラピスセミコンダクタ宮城株式会社	TEL:(022)345-1211
ラピスセミコンダクタ宮崎株式会社	TEL:(0985)85-5111
アグレッド株式会社	TEL:(072)770-8060
ローム滋賀株式会社	2015年4月設立 (2016年2月事業開始予定)

開発拠点

京都テクノロジーセンター(本社)	TEL:(075)311-2121
京都テクノロジーセンター(京都駅前)	TEL:(075)365-1073
横浜テクノロジーセンター	TEL:(045)476-2131

物流・その他拠点

ローム・ロジステック株式会社	TEL:(0865)44-3181
成田技研株式会社	TEL:(06)6433-0410

〈Global〉

主要営業拠点

ASIA
- ROHM Semiconductor Korea Corporation
  TEL: +82-2-8182-700
- ROHM Semiconductor Trading (Dalian) Co., Ltd.
  TEL: +86-411-8230-8549
- ROHM Semiconductor (Shanghai) Co., Ltd.
  TEL: +86-21-6072-8612
- ROHM Semiconductor (Shenzhen) Co., Ltd.
  TEL: +86-755-8307-3008
- ROHM Semiconductor Hong Kong Co., Ltd.
  TEL: +852-2740-6262
- ROHM Semiconductor Taiwan Co., Ltd.
  TEL: +886-2-2500-6956
- ROHM Semiconductor Singapore Pte. Ltd.
  TEL: +65-6436-5100
- ROHM Semiconductor Philippines Corporation
  TEL: +63-2-807-6872
- ROHM Semiconductor (Thailand) Co., Ltd.
  TEL: +66-2-254-4890
- ROHM Semiconductor Malaysia Sdn. Bhd.
  TEL: +60-3-7931-8155
- ROHM Semiconductor India Pvt. Ltd.
  TEL: +91-44-4352-0008

AMERICA
- ROHM Semiconductor U.S.A., LLC
  TEL: +1-408-720-1900
- ROHM Semiconductor do Brasil Ltda.
  TEL: +55-11-3539-6320

EUROPE
- ROHM Semiconductor GmbH
  TEL: +49-2154-921-0

生産拠点

ASIA
- ROHM Korea Corporation
  TEL: +82-2-8182-600
- ROHM Electronics Philippines, Inc.
  TEL: +63-2-894-1536
- ROHM Integrated Systems (Thailand) Co., Ltd.
  TEL: +66-2-909-7100
- ROHM Semiconductor (China) Co., Ltd.
  TEL: +86-22-8398-9000
- ROHM Electronics Dalian Co., Ltd.
  TEL: +86-411-8762-0001
- ROHM-Wako Electronics (Malaysia) Sdn. Bhd.
  TEL: +60-9-7741500
- ROHM Mechatech Philippines, Inc.
  TEL: +63-46-430-2281
- ROHM Mechatech (Thailand) Co., Ltd.
  TEL: +66-36-374-580～4
- ROHM Mechatech (Tianjin) Co., Ltd.
  TEL: +86-22-2388-8585

AMERICA
- Kionix, Inc.
  TEL: +1-607-257-1080

EUROPE
- SiCrystal AG
  TEL: +49-911-8177599-0

開発拠点

ASIA
- Korea Design Center TEL: +82-2-8182-458
- Shanghai Design Center TEL: +86-21-6072-8612
- Shenzhen Design Center TEL: +86-755-8307-3008
- Taiwan Design Center TEL: +886-2-2500-9390
- India Design Center TEL: +91-80-4205-6225

AMERICA
- America Design Center (San Diego)
  TEL: +1-858-625-3600
- America Design Center (Santa Clara)
  TEL: +1-408-720-1900

EUROPE
- Europe Design Center TEL: +49-2154-9210

ROHM
SEMICONDUCTOR

www.rohm.co.jp

THE GLOBAL COMPACT
COMMUNICATION ON PROGRESS

This is our **Communication on Progress** in implementing the principles of the **United Nations Global Compact** and supporting broader UN goals.

We welcome feedback on its contents.

UD FONT 見やすく読みまちがえにくい ユニバーサルデザインフォントを採用しています。

VEGETABLE OIL INK

FSC www.fsc.org ミックス 責任ある木質資源を使用した紙 FSC® C022337

Waterless Printing. Naturally.

58C6901J 06.2015 ROHM © 15000·SG